

Doc. 3166

Evid.

Folder 9

(2)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3166

22 Oct 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Bound Volume, "Letters of Opinions Concerning Army Purge" (SHUKUGUN-NI-KANSURU-IKENSHO)

Date: July-April 1937 Original (x) Copy () Language: Japanese

Has it been translated? Yes (x) No ()

LOCATION OF ORIGINAL

IPS Document Division

SOURCE OF ORIGINAL:

PERSONS IMPLICATED: ARAKI, Sadao; HASHIMOTO, Kingoto

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparations for War - Military; Rise of Military to Power; Ultra-Nationalism and Nationalistic Societies

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Document contains reports written and addressed to the army authorities by Captain MURANAKA, Koji and 1st Intendance Officer ISOBE, Tokuichi concerning the army purge. The document contains most important historical information concerning the urgent situation which prevailed over the army immediately before the fatal 26 February Incident broke out. Names of the accused ARAKI, OKAWA, HASHIMOTO and MUTO are found therein.

Index of the document is as follows:

Opinions on Army Purge - 11 July 1937

By Captain MURANAKA, Koji, 1st Intendance Officer ISOBE, Tokuichi

Annexed Note 1 - Letter addressed to War Minister and Chief of Martial Court of the 1st Division By Captain MURANAKA, Koji

Doc. No. 3166

Page 1

Doc. No. 3166 - Page 2 - SUMMARY Cont'd

Annexed Note 2 - Letter of Accusation against Major KATAKURA and Captain TSUJI, dated 7 Feb 1937 By Captain MURANAKA, Koji

Annexed Note 3 - Additional Letter of Accusation against Major KATAKURA and Captain TSUJI, dated 24 April 1937 By Captain MURANAKA, Koji

Annexed Note 4 - Letter of Accusation and Summary of Statement By Intendance Officer ISOBE

Annexed Note 5 - Note by LtCol TANAKA, Kiyoshi, concerning the so-called October Incident

Prospectus

List of members of SAKURA-KAI (The Cherry Blossom Society).

Analyst: ET GARDEN

Doc. No. 3166
Page 2

肅軍ニ関スル意見書

109
B 362

IMT 598

1

| 出 臺 所 本 | 筆 寫 年 月 | 備 考 | 内 容 概 説 |
|------------|---------------------|---|--|
| 杉本忠雄 | 昭和十七年六月 探訪者 薄井福治 | 本書ノ基本ハ美濃判洋紙百八十二頁(每頁十五行 三十字詰、四号活字)ニ印刷セルモノニシテ、以印刷代筆 画ト表紙ニナリ | 昭和十年七月陸軍歩兵大尉村中孝次、陸軍一等主計 部員一ヨリ陸軍当局ニ上申セルモノニシテ、二二六事件勃 發前ニ於ケル陸軍部内、緊迫セル情勢ヲ窺フニ足ル機 密史料ナリ。(村中、機部、兩人ハ二二六事件、後、死 刑トナレリ) |

機密



IMT 598

3

目次

昭和十年七月十一日

○ 艦軍ニ關スル意見書

陸軍歩兵大尉 村中 孝次

陸軍一等主計 飯部 淺一

(附録第一)

◎ 上申書

陸軍歩兵大尉 村中 孝次

(附録第二)

片倉少佐
ニ對スル告訴狀中告訴理由

辻 大尉

昭和十年二月七日 獄中ヨリ呈出

頁

六

一

同 二月十九日受理

村中 大尉

一七

○ (附錄第三)

昭和十年四月二十四日

○ 片倉少佐
ニ對スル告訴狀追加

○ 辻 大尉
村中 孝次

三七

(附錄第四)

○ 告訴狀及陳述要旨

磯部 主計

七〇

(附錄第五)

昭和七年一月

出中清中佐手記

○ 出中清中佐手記

所謂十月事件ニ關スル手記

七六

○ 櫻趣意書

一〇八

○ 櫻會人名錄

一一一

寫

昭和十年七月十一日

肅軍ニ關スル意見書

| | |
|--------|--------|
| 陸軍一等主計 | 陸軍歩兵大尉 |
| 磯部淺一 | 村中孝次 |

(以印刷代筆寫)

1107

2

肅軍ニ關スル意見

謹ミテ卑見ヲ具申ス

現下帝國内外ノ情勢ハ「眞ニ稀有ノ危局ニ直面セルヲ想ハシムルモノ」
 アルハ曩ニ師團長會同席上陸軍大臣ノ口演セラレシ所ノ如ク深憂危惧一
 日モ晏如タリ難ク「時艱匡救ノ柱軸タリ國運打開ノ權威タラサルヘカラ
 サル皇軍」ノ重責ハ愈々倍加セラレタリト謂フヘシ
 此秋ニ臨ミ「舉軍ノ結束鐵ヨリモ堅ク一絲亂レサル統制ノ下ニ其ノ使命
 ニ邁進スルハ現下ノ重大時局ニ鑑ミ其ノ要特ニ切實」ナルハ固ヨリ多言
 ヲ要セサル所ナリ然ルニ現大臣就任以來軍統制ニ關スル屢次ノ訓示、要
 望アリシニ拘ラス「各般ノ事象ニ徹スルニ遺憾乍ラ更ニ一段ノ戒愼ヲ要
 ス」ト云フヨリモ寧ロ軍ノ統制亂レテ麻ノ如ク蓬亂流離殆ント收拾スヘ
 カラサル状態ニ在ルハ實ニ長嘆痛慨ニ堪ヘサル所ナリトス

固ヨリ社會ノ亂離混沌ハ變革期ニ於ケル歴史的必然ノ現象ニシテ軍部軍
人ト雖モ此ノ大原則ヨリ除外セラルヘキモノニ非ス亦是レ社會進化當然
ノ過程ナルハ達觀スヘシト雖モ是レヲ自然トシテ放任シ皇天ニ一任シテ
拱手傍觀スルハトラサル所、飽ク迄モ人事ノ最善ヲ盡シテ而シテ後天命
ノ決スル所ヲ俟タスンハアルヘカラス是レヲ以テ逐年訓示シ口演シ處罰
處分シ或ハ放逐シ投獄スルト雖モ愈々出テテ非統制狀態ヲ露呈シ來レリ
郷黨的或ハ兵科的ニ對峙シ天保無天ニ暗争ヲ繼續セル後最近ハ之レニ國
家革新ノ信念方針ノ異同ヲ加ヘ來ツテ「黨同異伐朋黨比周」シ甚シキハ
滿洲事變、十月事件、五・一五事件等ヲ惹起セル時代ノ潮流ニ躍リ國民
ノ愛國的戰時的興奮ノ頭上ニ野郎自大的ニ不謹慎ヲ敢テシ國家改造ハ自
家獨占ノ事業ト誇負シテ他ノ介入協力ヲ許サス或ハ清軍ト自稱シテ異伐
排擠ニ寧日ナキ徒アリ或ハ統制ノ美名ヲ亂用シ私情ヲ公務ニ裝ヒテ公權

ヲ擅斷シ上ハ下ニ臨ムニ「感傷的妄動ノ徒」ヲ以テシ下ハ上ヲ視ルニ政治的策謀ノ疑ヲ以テス、左右信和ヲ缺キ上下相尅ヲ事トス實ニ危機巖頭ニ立ツ顧ミテ慄然タラサルヲ得サル所ナリ

噫、皇軍ノ現状斯クノ如クニシテ何ニヨリテ「時艱匡救ノ柱軸タリ國運ノ權威タルヲ得ヘキ窮カニ思フ此ノ難局打開ノ途ハ他ナシ本年度參謀長會同席上ニ於ケル軍務局長所說ノ如ク「信賞必罰、懲罰ノ適正」ヲ期シ軍紀ヲ肅正スルニ在ルノミト

實ニ皇軍最近ノ亂脈ハ所謂、三月事件、十月事件ナル逆臣行動ヲ僞瞞陰蔽セルヲ動因トシテ軍内外ノ攪亂其極ニ達セリ然モ其ノ思想ニ於テ其ノ行動ニ於テ一點ノ看過斟酌ヲ許スヘカラサル大逆不遑ノモノナリシハ世間周知ノ事實ニシテ附錄第五「〇〇少佐ノ手記」ニヨリテ其ノ大體ヲ察シ得ヘシ而シテ上ハ時ノ陸軍大臣ヲ主班トシ中央部幕僚群ヲ網羅セル此

ノ二大陰謀事件ヲ皇軍ノ威信保持ニ藉口シテ掩覆不問ニ附スルハ其ノ事
自體、上軍御親率ノ 至尊ヲ欺瞞シ奉ル大不忠ニシテ建軍五十年未曾有
ノ此ノ二大不祥事件ヲ公正嚴肅ニ處置スルコトヲ敢テセサリシハ實ニ大
權ノ無視、「天機關說」ノ現實ト謂フヘク斷シテ臣子ノ道股肱ノ分ヲ踏
ミ行ヘルモノニ非ス軍内攪亂ノ因ハ正ニ三月、十月ノ兩事件ニアリ而シ
テ兩大逆事件ノ陰蔽糊塗ハ亦實ニ今日伏魔殿視サルル軍不統制ノ果ヲ結
ヘルモノト謂ハサルヘカラス之レヲ別抉處斷シ以テ懲罰ノ適正ヲ期スル
ハ軍肅清ノ爲採ルヘキ第一ノ策ナリト信ス
爾餘ノ些事ハ是レヲ省略ス

昨冬以來問題トナリシ所謂十一月廿日事件ニ對スル措置ニ至ツテハ最モ
公正ヲ缺クモノト云ハサルヘカラス最近ニ於ケル訓示、諭告ハ總テ青
年將校ノ妄動ニ歸スト雖モ統制破壞ノ本源ハ實ニ自ラ別個ニ存在セリ

以下十一月事件ニ關シ歪曲セラレ陰蔽セラレアル經緯ヲ明カニシ以テ御
高鑑ニ資セントス

別紙添附セル左記附録ニ就キ真相御究明ヲ冀望ス

一、附録第一 陸軍大臣及第一師團軍法會議長宛上申書

二、附録第二 片倉少佐、辻大尉ニ關スル告訴狀中告訴理由

三、附録第三 片倉少佐、辻大尉ニ對スル告訴追加（以上村中大尉）

四、附録第四 告訴狀竝陳述要旨（磯部主計）

以上ヲ以テ事件推移ノ真相梗概ヲ明カニシ得ヘシ實ニ十一月廿日事件ニ
關スル限り軍司法權ノ運用ニ於テ懲罰ノ適用ニ於テ共ニ公明適正ヲ缺キ
將又公的地位ヲ擁シテ擅權自恣ノ策謀妄動スルモノアリ軍内攪亂ノ本源
ハ實ニ中央部内軍當局者ノ間ニ伏在スルモノト斷言スルモ敢テ過言ニア
ラサルヲ信ス

切言ス。皇軍現下ノ紛亂ハ三月事件、十月事件ノ別抉處斷ト兩事件ノ思想行動ヲ今ニ改悛自悔スルコトナクシテ陰謀ヲ是レ事トスル徒ノ艾除トヲ斷行スルニ非スンハ遂ニ底止收拾スル所ヲ知ラサルヘシ。不肖カ一身ノ毀譽褒貶ヲ顧ミス告訴ヲ提起セル所以ノモノハ實ニ敍上ノ英斷決行ニヨリ肅軍ノ目的ヲ達スヘキ機會ヲ呈供セントスル大乘的意圖ニ立チシカ故ナリ。

今ヤ國體問題朝野ニ論議セラレ講壇ニ三十年論說セラレ信奉セラレ來リシ反逆亡國的邪說ト是レニ基キ施設サレ運營セラレ來リシ制度機構ナルモノカ「國體明徴」ノ國民的信仰ノ前ニ雲散霧消ヲ嚴明セラレ「國體明徴」ヨリ「國體顯現」ヘ、「國體ニ關スル國民的信仰ノ恢復、國民ノ國體覺醒」ヨリ「學國維新ノ聖業翼贊」ヘト必然的過程ヲ踏マントスルトキ「時艱匡救ノ柱軸タリ國運打開ノ權威タラサルヘカラサル皇軍」ノミ

獨り依然タル「天皇機關説、大元帥機關論」的思想ト内容トノ殘滓ヲ包
 ンテ恥ナキヲ得ルヤ「陸軍ハ維新阻止ノ反動中樞」ナリトスル國民的非
 難ニ永ク耳ヲ掩フハ救フヘカラサル危殆ヲ誘引スルモノ今ヤ斷乎トシテ
 猛省英斷ヲ要スル秋ニ際會セリ不肖衷々トシテ茲ニ憂フルカ故ニ非難貶
 黜ノ一身ニ集ルヘキヲ顧ミス敢テ暴言蕪辭ヲ連ネテ私見ヲ具申スルモノ
 ナリ

黜陟ハ伏シテ是レヲ待ツ唯々冀クハ國家ト皇軍ノ爲明察英斷アラシムコト
 ヲ

頓首再拜

(附錄第一)

上
申
書

陸軍步兵大尉
村中孝次

告訴事件審理ノ件上申

昭和十年五月十一日

陸軍歩兵大尉 村中孝次

陸軍大臣 殿

第一師團軍法會議長官 殿

私儀

過般片倉少佐、辻大尉カ私等ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚
 偽ノ申告ヲナシタル件ニ關シ二月七日附ヲ以テ第一師團軍法會議檢察官
 宛告訴ヲ提起シ軍司法當局ノ至平至公ナル御裁斷ヲ待チ居リ候然ルニ迅
 速峻嚴ハ軍法會議ノ特性ナルヲ信シ且ツ又所謂十一月二十日事件ハ告發
 アルヤ直チニ將校及士官候補生八名ヲ拘束シテ峻嚴ニ審理ヲ開始シタル
 ニ拘ラス本誣告ノ告訴ニ關シテハ既ニ三ヶ月ヲ經過スルモ未タニ當局ノ

積極自發的搜查ノ開始セラレサルハ實不審ニ堪ヘサル所ニ候
別紙縷述スル所ヲ御參照ノ上本告訴事件審理ニ關シ特ニ檢察當局ヲ御鞭撻下サレ度茲ニ謹ンテ及上申候也

別紙
陸軍歩兵大尉 村中 孝次

所謂十一月廿日事件並之レニ伴フ
誣告事件ニ關スル私見及希望

其一、誣告事實ニ就テ

一、辻大尉ノ「スパイ」的行動

辻大尉ハ青年將校ノ内情ヲ探ラント欲シテ佐藤候補生ヲ「スパイ」トシテ私共ニ接近セシメタリ

右ハ辻大尉、佐藤候補生ノ兩名共齊シクコレヲ認ムル所ニシテ其ノ目的動機ヲ美化シアルモ少クトモ辻大尉ニ於テハ從來私共ニ對シ惡意的ナル言動ノアリシコト、對立的態度ニ在リシコト等ヨリ推測シテ其ノ目的ハ當然ニ私共ヲ排撃スル爲ノ資料ヲ獲得スルニ在リシハ明瞭ニシテ疑フ餘地ナシ

二、辻大尉、片倉少佐カ虚偽ヲ申告セル事實

塚本憲兵大尉カ昨年十一月十九日憲兵司令部ニ於テ報告セル内容ハ次ノ通りニシテ同二十日早朝陸軍次官ニ對シ片倉、辻、塚本ノ三名カ彈壓ヲ要請セシ時報告セル青年將校ノ不穩計畫ニ關スル資料モ概ネ同一内容ノモノト推定セラル

右内容（口頭ニテ申述フ）

註、口述要旨左ノ如シ

塚本大尉カ辻大尉ヨリ聴取セリト云フ内容

一、事件ノ全貌

概ネ五・一五事件ト同様ノ方法ヲ以テ元老、重臣又警視廳ヲ襲撃

シ「クーデター」ヲ決行スルニ在リ

二、決行時機

當初臨時議會前ノ豫定トシアリシモ臨時議會中又ハ通常議會ノ

間ニ決行スルコトニ延期シタルヤノ聞込アリ

三、襲撃目標

第一次 齋藤、牧野、後藤文夫、岡田、鈴木、西園寺、警視廳

第二次 一木、高橋、清浦、伊澤、湯淺、財部、幣原

第一次目標襲撃後首相官邸ニ集合更ニ第二次目標襲撃ニ向フ豫

定

四、首謀者ト認ムヘキモノ及參加者

軍部側

陸大 村中 砲一 磯部 戸山 大藏

戰車二 栗原 步一 佐藤龍雄 步一 村田

步一 佐藤操 步三 安藤 近步三 飯淵

步一八 間瀬惇二

地方側

西田 稅

步兵學校補備教育中ノ左記將校

步三八 鶴見 步三 北村 步一三 赤座

步七三 池田 步五 鈴木 步二五 高橋

步三一 天野

步一三 步二八 步三四 步五 步二五 步七三 步三 將校氏名

不詳 不詳 不詳 不詳 不詳 不詳 不詳

五、實行方法

左ノ區分ニ依リ襲撃ヲ計畫ス

步一 佐藤兩名 二 中 齋藤 步三 安藤、大藏

二 中 牧野 近歩二 村田 一中 後藤

近歩三 飯淵、磯部 一中 岡田 步一八 間瀬

不詳 西園寺 陸士豫 片岡 不詳 鈴木

戰車工 栗原 十 臺 三臺首相、七臺警視廳

本報告内容ハ辻大尉、片倉少佐ノ兩名ニ依ツテ作爲セラレタルモノナル
 カ又ハ塚本大尉ヲ加ヘタル三名ニ依ツテ作爲セラレタルモノナルヲ推定
 スヘキ理由アリテ之レヲ私共カ佐藤候補生等ニ對シ談話セルモノニ照シ

相違スル重ナル點次ノ如シ

イ、決行時機ニ就テ（口述）

註、口述事項ハ附錄第二告訴理由中其ノ四ノ三及附錄第三告訴追加中

第五其ノ二ノ一ト略々同様ナリ

ロ、首謀者及參加者ニ就テ（口述）

註、口述要旨左ノ如シ

前掲報告ノ首謀者及參加者中ノ歩一佐藤操、歩一八間瀬惇二、地方
側西田税、歩兵學校補備教育中將校七名及氏名不詳將校若干ハ不肖
ヨリ佐藤候補生ニ言ヒ聞カセタルモノニ非ス現ニ佐藤操、間瀬惇二
ノ如キハ二、三年前ヨリ滿洲ニ在リ且歩兵學校將校トシテ列記セラ
レタル者ハ臨時議會前ノ十一月十五日同校ヲ卒業セルモノ而シテ是
等ノ人名ハ片倉少佐カ所持スル手帳中ニ昭和九年十一月一日現在青

年將校ノ動向トシテ記載シアルコトニ照シテ同少佐カ青年將校ニ成
ルヘク廣ク關連ヲ有セシメ一舉ニ掃蕩セシメントスル企圖ヲ以テ羅
列セルコト疑フ餘地ナク本實行計畫ナルモノハ實ニ片倉少佐等ニヨ
リテ作成セラレタルモノナルヲ立證スル一證左ナリ

尙事件當初ヨリ問題トナリシ目的、指令等ニ就テ辻等ノ所説ト實際トハ
次ノ如キ相違アリ

ハ、目的ニ就テ（口述）

註、口述要旨左ノ如シ

決行目的ニ就キ佐藤候補生辻大尉等ハ帝都ヲ攪亂ニ陷レ戒嚴令ヲ宣
布シ軍政府ヲ樹立スルニ在リ云々ト三月事件十月事件の頭腦ヨリ割
リ出シ惡意ノ申告ヲナシアルモノ不肖カ候補生ニ對シ説明セルモノハ
吾人ノ挺身蹶起ハ君側ノ奸臣、國體歪曲ノ元兇ヲ艾除スレハ足ル其

ノ結果トシテ眞ニ至誠盡忠ノ士カ側近ニ侍シテ正シキ輔弼行ハルニ
至ルヘシト云フニ在リテ此點佐藤候補生自身最近ニ至リ豫審陳述ヲ
翻ヘシアリ（附錄第四中佐藤勝郎ト中島少尉及佐々木貞雄トノ問答
参照）

二、指令ニ就テ（口述）

註、口述要旨左ノ如シ

事件當時不肖ヨリ士官候補生ニ對シ指令ヲ發シタリトナシ計畫準備
ノ眞實性ヲ立證スルモノトシテ喧シク問題ニセラレタルモノハ實ハ
巧妙ナル偽作ニ過キサルコトハ佐藤勝郎對中島少尉、佐々木貞雄ノ
問答ニ就キ明カニ之レヲ察知シ得ヘシ（附錄第四中同問答參照）

以上所說ノ如ク所謂實行計畫ナルモノ中ニ於テ兵力部署ハ三月事件十月
事件以來屢々喧傳流說セラレタル各種ノ「デマ」ト略々同様ニシテ私ノ

士官候補生ニ説話セルモノト類似ノ點アルモ其ノ他ニ於テハ大方針トモ云フヘキ目的、時機等ニ於テ雲泥氷炭ノ相違アリ且ツ指令ナル準備命令的ノモノヲ羅列附加セルアリテ虚構作爲ヲ以テ軍當局ノ彈壓ヲ促シタルハ明カナリト云フヘシ

三、刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ行ハシムル目的ナリシコト

反亂陰謀トモ云フヘキ事實内容ヲ虚構捏造シテ誇張巨大ニ軍警察當局或ハ陸軍次官ニ報告スルコトハ而モ夫レカ特ニ夜中飛ヒ廻リ騒キ立テタル點ニ於テ刑事又ハ懲戒處分ヲ行ハシムルコトヲ目的トセルコト明白ニシテ前二項ヲ参照スルトキ當人等カ如何ニ強辯シ辯疏スルト雖モ此ノ目的以外ニアラサルハ多言ヲ要セスシテ首肯シ得ル所ナリ

四、以上ヲ以テ誣告事實ハ極メテ明瞭ナリト思考ス

檢察官ニ對シテハ尙詳細ニ亘リ事實ニ立脚シテ告訴シアリ

一、

十一月事件ノ結末トシテ私共ハ三月二十九日不起訴ノ決定ヲ受ケ四月二日關係將校三名ノ停職、士官候補生五名ノ退校ノ御處分ヲ受ケ

タリ

本結末ニ關シ私共ハ十一月廿日事件ノ事實無根ナルコトヲ天地神明

ニ金鐵斷言シ得ル當人ナルモ神聖ナルヘキ軍司法ノ裁斷ニヨリ決定

ヲ見タルモノニ就テ兎角ノ言ヲ爲スヲ層トセサルモノナリ然レトモ

國法ノ正シキ運用ハ國家紀綱ヲ維持伸張スル所以ナルト同様軍司法

權ノ公正無私ナル運用ハ實ニ軍紀ヲ確立スルノ淵源ナルヲ思フカ故

ニ本事件ノ結末タル判決ニ關シ些カ疑惑ノ存スル所ヲ述ヘ今後ニ於

ケル御參考ニ資セント欲ス

イ、不起訴事件票（三月二十九日第一師團軍法會議發）

893 TMI

ニ對スル疑點（口述）

註、口述要旨左ノ如シ

三月二十九日附第一師團軍法會議發不起訴被告事件票ノ犯罪事實概要欄ニハ明カニ「○○○○支配階級ヲ打倒センコトヲ企圖シ以テ反亂ヲ陰謀シタルモノナリ」トアリテ明瞭ニ犯罪事實ヲ肯定シ而モ不起訴ノ理由トシテ「證據十分ナラス」トアルハ首尾一貫セサルモノニシテ檢察官カ「犯罪事實概要」トハ嫌疑事實ヲ意味スルモノナリト辯解セリト雖モ其ノ全文ヲ一覽スレハ「嫌疑事實」ノ文面ニ非サルハ容易ニ首肯シ得ヘクスノ如キ遁辭ヲ設クル點疑惑ノ念ヲ愈々深クセサルヲ得ス

巷間此間ノ真相ヲ傳フルモノトシテ切りニ喧傳シテ曰ク、「事件ノ決定ニ關シ陸軍省ハ「微罪、起訴猶豫」檢察官ハ「微罪、不起訴」

第一師團長ハ「證據ナシ、不起訴」ノ意見ヲ有シ結局「證據十分ナ

ラス、不起訴」トナリシモノナリ」ト或ハ曰ク「上奏前突如「微罪」

ヨリ「證據十分ナラス」ニ變更セラレタルモノナリト

犯罪事實ヲ認メテ苟クモ反亂陰謀トモイフヘキモノヲ「微罪」ト云

フハ了解ニ苦シム所、其ノ他軍法會議ノ終始ヲ通シテ公明ヲ缺ケル

コト多ク陸軍省ニ於ケル各種ノ空氣力軍法會議ヲ拘束セリト云フ風

評ハ單ナル浮説トシテ斥ケ得サルモノナリ

ロ、意見書ノ一部ニ關スル疑點（口述）

註、口述要旨左ノ如シ

磯部主計カ檢察官ヨリ其ノ意見書ノ一部ヲ披見セシメラレタル所ニ

ヨレハ「○○○○ノコトヲ謀議シ○○○○ノコトヲ士官候補生

ニ指示シ云々」トアリテ此點檢察官ハ「少シク語調カ強過キタカモ

知レヌ」ト辯疏セリトノコトナルモ如何ナルコトヲ基礎トシテ計畫
ノ謀議ヲ確定シ指令ヲ發シタリト認ムルヤ語調強キニ失シタリトシ
テ責任ヲ回避シ得ルヤ
ハ、豫審中ニ於ケル誣告事實ノ審理ニ就テ

最近説ヲ爲ス者アリテ曰ク「十一月廿日事件ハ八名以外ニ大藏大尉、

栗原中尉等ヲ收監シテ審理セハ犯罪事實カ確定セシナラン」ト然リ私

ヲシテ之レヲ謂ハシムレハ所謂實行計畫ナルモノニ數ヘラレタル人物

全部ヲ收監ノ上嚴重審理スルハ理ノ當然ニシテ當時コレヲ實施セラレ

シナラハ事實無根ナルコトハ極メテ明白ニ立證シ得ヘカリシナラント

更ニ辻、片倉、塚本ノ三名ヲモ同時ニ收監シテ其ノ誣告被疑事實ニ就

キ嚴重ニ捜査セシナランニハ十一月廿日事件ノ結末ハ恐ラクハ別個ノ

モノタリシハ信シテ疑ハサル所ナリ而シテ當初ヨリ既ニ誣告ノ嫌疑ハ

充分ニ濃厚ニ存在セシコトニシテ誣告事實ノ有無ヲ搜查セサル一方的
 審理ヲ以テシテハ十一月廿日事件ナルモノハ斷シテ公世明白ナル結論
 ニ到達シ得サリシハ當初ヨリ極メテ明瞭ナリシコトナリ
 ニ、私共將校三名ノ停職ハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤハ不明ナルモ
 新聞紙ノ報道セル如ク軍紀上不適當ナル言動アリシニヨルモノトスレ
 ハ本事件ニ於テ辻大尉、片倉少佐等ノ處分ニ及ハサリシハ極メテ一方
 的處斷ト謂ハサルヘカラス辻大尉等ノ誣告ニ關スル事實ハ未タ證據明
 確ナラントスルモ同大尉カ士官候補生ヲ「スパイ」ニ使用シ皇軍内ニ
 於テ思想信念ヲ異ニスルト云フ一方的獨斷ニ基キ私共ニ對シ宛モ敵人
 ニ對スルカ如キ態度ヲ以テ其ノ内情ヲ偵察セシメ之ヲ覆滅セントシ行
 動ニ至ツテハ國軍ヲ寸斷分裂ノ破壊ニ導クモノニシテ兵馬ノ大權ヲ冒
 瀆スル不逞行動ト云ハサルヲ得サル所ニシテ軍當局ニ於テハ

大元帥陛下ノ大權奉行ヲ人ニヨツテニツニスルカ如キコトハ勿論斷シ
テ之レアル筈ナク私ヨリ提起セル誣告告訴ノ終末ヲ待ツテ斷然トシテ
正當ナル處斷ニ出テラルルモノナルヲ信シテ疑ハサルナリ然ラハ檢察
當局ニヨル本誣告事件ノ審理カ遅々トシテ進捗セサル現状ニ於テハ宜
シク之レヲ督促シ以テ明快至平ノ判決ニ迅速ニ到達セシムルノ要アル
ヲ信ス

巷間傳フル所ノ如ク軍當局ニ於テ本事件ノ審理ヲ拘束制肘シアリト云
フカ如キ風評カ萬一現實トナリ本誣告事件ノ告訴カ有耶無耶ノ間ニ葬
リ去ラルルカ如キコトアランカ本告訴ノ正當ナル歸結ニ依ツテ私共ノ
上ニ殘サレタル疑雲ヲ多少ナリト排除シ得ヘシト待望シアル私共ハ却
テ疑惑暗雲ノ中ニ深く幽閉セララル結果トナリ十一月廿日事件ノ結末
ト共ニ二重ノ打撃タラサルヲ得ス是レ斷シテ忍ビ得サル所ニシテ只管

檢察當局ニ對スル閣下ノ至當ナル指揮鞭撻ニヨリ私共ヲシテ晴天ニ白

日ヲ仰クヲ得シムルコト願望已マサルナリ

特ニ本誣告事件ニ關スル證人、證據ハ軍ノ當路者ニ關係セル所多ク檢

察官トシテ容易ニ審理ニ着手シ難キ状態ニアリト推察スヘキ理由アル

ヲ以テ此ノ爲ニ檢察官カ無用ノ介意配慮ヲスルコトナク無拘束公正ニ

軍司法權ヲ運用シ得ル様特別ノ御取計ヒノ程切望ニ堪ヘヌ

三、本告訴被告人ノ身柄ハ速カニ拘束スルヲ要ス

誣告事件ノ本質上被告人相互ニ於テ巧ナル連絡ヲナシ證據ヲ湮滅シテ言

ヒ逃レヲナストキハ容易ニ犯罪事實ヲ確定シ難キハ當然ナルヲ以テ既ニ

機ヲ逸シタル憾アリト雖今後ニ於ケル捜査ハ被告人ノ身柄ヲ拘束シテ取

調ヘヲナスヲ肝要ト信ス

其三、結

私共一部ノ青年將校ハ今日ニ至ル迄上下一貫、左右一體ヲ標語トシテ軍ノ鞏固ナル維新的結束ニ努力シコレヲ以テ維新御奉公ノ主要事項トシテ終始シ來レルモノニシテ私共ヲ目シテ直接行動ヲ企圖スル不穩分子トスルハ寧ろ軍内一部ノ士方軍事費檢出等ノ苦肉策トシテ青年將校ノ不穩行動勃發ヲ頻リニ喧傳シテ政界財界ヲ脅威相喝スルヲ常套手段トセル結果ニヨルモノニシテ私共ハ其ノ他各種ノ中傷讒誣ヤ彈壓ヲ甘受シ陰忍シテ敢テ緘黙ヲ守リテ只管舉軍一體ノ御維新翼贊ヘト努力シ來レリ然ル二十一月廿日事件ナル虛構事實ニ驚膽駭目セシメラレ且本事件ト表裏ノ關係ニアル誣告ノ告訴ハ審理進展セス加フルニ最近ニ於テハ一部青年將校（恐ラクハ十一月廿日事件ノ證人關係）ノ昭和六年以降ノ行動ヲ數ヘ舉ケ是レヲ罪惡視シテ嚴重ニ處分スヘキ旨陸軍當局ヨリ全軍ニ令達セラレタルヤノ風聞アリテ人心正ニ沸騰ノ徵アリ昭和六年以降ニ於ケル

三月事件、十月事件其ノ他ノ國體破壞行動ヲ不問ニ附シ國家ヲ思フカ故
 ノ純情熱意ノ下ニ奔走不休日夜ヲ辨ヘサルモノヲ青年將校ナルカ故ニ階
 級ノ卑シキ者ナルカ故ニ無道ニ彈壓スルカ如クンハ皇軍ノ紀綱ハ全ク崩
 壞シテ遂ニ救フ能ハサル結果ニ墮スルハ火ヲ賭ルヨリ明カナリ私儀
 深ク之ヲ憂フルカ故ニ自己一身ニ關係スルコトナルヲ憚ラス敢テ私見ヲ
 具申スルモノナリ幸ニ微衷ヲ諒トセラレんコトヲ

以上

(附錄第三)

片倉少佐
辻大尉

ニ對スル告訴狀中告訴理由

昭和十年二月七日獄中ヨリ呈出

同 二月十九日受理

村中
大尉

告 訴 理 由

其一、總論

小官儀囊ニ佐々木、荒川、次木、武藤、佐藤ノ五士官候補生指導上ノ一時的方便トシテ小官等陸軍青年將校一部ノ中ニ如何ニモ乾坤一轉ノ一大壯舉ヲ企圖シ居ルカ如キコトヲ口ニセルコトニ端ヲ發シテ檢察處分ヲ受ケ身柄ヲ拘束セラレテ以來心中日夜思フコトハ小官外七名ノ此行ニヨツテ陸軍部内ニ鬱屈停滯セル明暗對流ノ正邪曲直ハ自ら識者ノ辨別スル所トナリ且當初小官等ヲ一掃シ延イテハ林、眞崎、荒木三大將及是レニ親近セル諸將軍ヲ小官等ト關聯アルモノト爲シテ共ニ排陷センコトヲ企圖セル者及是等ニ誘引躍動セシメラレシ人士ノ中ニモ内心~~期~~期^至スシテ忸怩タルモノアリテ反省一番スルニ至ルヘク混濁セル我皇軍内ニ一抹ノ清涼

劑ヲ點下スルノ好結果ヲ招來シ得ルニアラスヤト^期待シ自ラ慰ムル所アリシナリ
然ルニ事一度司直ノ手ニ委セラレ黑白是非盡ク至公平ノ明鑑ノ斷スル所ヲ待ツテ決定スヘキニ尙且策動陰謀ヲ止メス中傷誹謗ヲ事トシテ已ムコトナキ風評ヲ耳ニシ實ニ國家竝皇軍ノ爲ニ憂憤禁スル能ハス斯方ル徒輩ヲ斷然トシテ艾除スルコトナクンハ皇軍内ニ於ケル現下ノ紛亂ハ永ク終結スルコトナク皇國ノ將來ニ大害ヲ醸スヘキハ必然ニシテ危惧憂慮ニ堪ヘサル所ナリ
由來陸軍ハ陰謀ノ府トシテ世人ノ忌憚スル所又策謀多キノ故ヲ以テ叡慮ヲ患ハセ給フト漏レ承ハル上ハ宸衷ヲ惱マシ奉リ下ハ國民ノ信ヲ失フ斯クノ如クンハ一旦非常ノ秋舉國一致ノ總動員ヲ必要トスル近代國防ニ於テ何ニヨリ武威ヲ伸ヘ皇輝ヲ振ハンヤ邪陰無反省ノ徒ヲ掃除一洗シテ

公明正大ナル紀綱ヲ確立スルハ現下皇軍ノ内部事情ニ鑑ミ一日ノ急ヲ要スル緊喫事ナリト信ス

小官等數ヶ月ノ幽居ノ結果カ明カナルニ從ヒ彼等邪謀ノ徒モ自ら反省歸正スルノ日アルヲ所期シ小官ハ靜カニ豫審ノ終結ヲ待タント欲セリ然ルニ此徒輩ノ暗躍日ニ加ハリ疾呼喧傳シテ皇軍内ヲ攪亂シテ恥ツルコトナキヲ知ルニ及ンテハ黙止セントシテ黙止スル能ハス茲ニ前記兩名ヲ告訴スルニ決セリ冀クハ微衷ヲ諒察セラレテ皇軍清肅ノ爲明斷ヲ垂レ給ハンコトヲ

片倉衷、辻政信ノ兩名カ小官等ヲ排擠シ延イテハ林、荒木、眞崎三大將及其餘ノ諸將軍ヲ一掃セント欲シ士官候補生佐藤勝郎ヲ小官等同志ノ内
部ニ「スパイ」トシテ潜入セシメ同人ノ探知セル事項ヲ以テ奇貨措クヘ
シトナシ是レヲ基礎トシテ歪曲捏造セルモノヲ以テ一大陰謀カ目前ニ迫

リツツアリト當局ヲ誑惑シ小官等ヲ行政處分ニヨリテ陸軍ヨリ一掃セシメントシ其ノ結果司直ノ發動トナリシハ明瞭ナル實證アリ以下項ヲ分チコレヲ論述ス

其二、片倉、辻兩人カ小官等ニ對シ嫉視反目スル理由並對立的行動ノ事實

一十月事件以來同事件ノ主謀者タリシ橋本欣五郎大佐、眞奈木信中佐、長勇少佐、小原重厚大尉及是等主謀者ト緊密ナル關係ニアリシ天野勇大尉、鈴木京大尉等ト小官トハ對立關係ニアリ又民間側ニ於テハ橋本天野ノ一派ナル大川周明、中谷武世、高野清八郎カ小官等ノ親近セル北一輝、西田稅トハ從來對立抗爭シアリテ是等橋本、天野等ノ一派ノ者カ口ヲ極メテ小官等ヲ譏誣シ國民思想、新使命、維新等ノ雜誌ヲ通シ或ハ怪文書ニヨリテ小官等ヲ以テ西田稅ニ使嫉煽動セラレテ軍部ヲ

攪亂スル者ナリトナシ又荒木、眞崎、柳川、秦、小畑等ノ諸將軍ニ筆
 誅ヲ加ヘ北、西田ニ操縦セラレテ國家ヲ誤リ不純青年將校（小官等ヲ
 指ス）ヲ庇護シテ皇軍ヲ紊ル者トナシ近クハ筆舌ヲ揃ヘテ現陸相ニ及
 ヒツツアルハ掩フヘカラサル事實ニシテ清軍運動ナルモノ即チ是レナ
 リ
 而シテ是等ノ人士ト片倉衷、辻政信トノ相互關係ヲ觀察スルニ片倉、
 辻等ハ其ノ持前ノ自尊心ヨリ發シテ兩者間全ク關係ナク獨立不羈ノ立
 場ニアル如ク裝ヒアルモ内實ハ然ラスシテ密接ナル關係ナルコトハ左
 ノ各項ニ照シテ明カナルヲ斷定シ得ヘシ
 イ、十月事件當時辻ハ天野、鈴木兩大尉ノ勸請ニ從ヒ同事件ニ於テ天
 野大尉等ト行動ヲ共ニスヘキコトヲ約セリ
 ロ、最近天野大尉ハ士官學校ニ於テ授業時間中盛ンニ辻政信ヲ稱揚ス

ル由ナリ

ハ、片倉、辻ハ池田純久少佐、田中清少佐ト密接ニシテ橋本、天野一派ハ池田、田中兩少佐ト又緊密ナリコレニ依リ片倉、辻兩人ト橋本天野一派トノ關係ハ推定シ得ヘシ

ニ、中谷ト天野トハ最モ緊密ニシテ片倉、辻カ中谷ト最近各所ニ會合スルノ風評アリ

以上ノ如ク片倉、辻ハ橋本、天野一派ト密接ナル關係ニアル所ヨリシテ兩者ノ共同目標トシテ小官等ニ對シテ惡感情ヲ抱クモノナルコトハ一ノ因由ト見ルヘキモノナリ

ニ小官等ハ口ヲ極メテ十月事件首謀者ノ實行方法ハ國體叛逆ナリト非難シ且其ノ行動ハ陰謀的ニシテ又彼等ノ理想カ軍部獨裁主義ナルヲ論難否認スルヲ以テ彼等ト同傾向ニアル片倉、辻等カ小官等ニ對シ心中快

カラサルモ因由ノ一ナルヘシ

三月十月事件以來小官等ハ次ノ如キ方針ヲ以テ終始シ來レリ即チ至誠天ニ通スル左ノ如キ各種ノ手段方法ヲ講シ大號令ノ御發動ヲ希フ

第一、陰謀的策動ヲ排シ左右、上下ヲ貫通シ陸海全軍ヲ維新的ニ結成

一體化シ軍ヲ維新ノ中該ニ向ツテ推進ス

第二、軍隊教育ヲ通シ且軍隊運動ヲ橫桿トシテ全國的ニ維新氣運ヲ醸成ス

第三、各種ノ國家問題、社會事象ヲ捕捉シ是レヲ維新的ニ解決シ國內情勢ヲ促進シ維新發程即チ大號令ノ煥發ヲ容易ナラシム

第四、武力行使ハ國體逆行爲ヲ討滅シ大義名分ヲ樹立スルヲ要スヘキ場合ニ斷行スルコトアルヲ豫期シ平素ハ武力的迫力ニヨツテ情勢ヲ誘道推進ス

右ト片倉、辻等ノ抱懷スル自己中心主義ノ國家社會主義的改造方針ト一致セサル所ヨリ小官等ニ對シ對立感ヲ抱クモノナルヘシコレヲ各項ニ就イテ考察スルニ

イ、小官等ノ維新的舉軍一體ニ對シ彼等ハ中央部萬能主義ナリ小官等ハ軍部ヲ動かシ國民ヲ覺醒セシメ澎湃タル國民運動ノ一大潮流タラシメントスルニ對シ彼等ハ陸軍中央部ニ於テ畫策指令スル所ニヨリ機械的正確ヲ以テ或ハ動員日課豫定表式進行ニヨリテ改造ヲ行ハントスルニ在リ小官等ハ陰謀的策動ヲ極力排撃スルニ對シ彼等ハ中央部本位ノ策謀ニヨリ國家改造ヲ行ハント欲シアリ

ロ、小官等ハ右ノ如キ國民運動ノ前提トシテ前掲第一、第二ノ如キ軍ノ維新的一體化ヲ企圖スルニ對シ彼等ハコレヲ策動ナリトシテ中傷排撃シ隊附將校ハ一意専心隊務ニ勉勵シ他ヲ顧ルヘカラス中央部ニ

於ケル余輩カ本務トシテ極秘裡ニ國家改造計畫ヲ立案中ナルヲ以テ
 青年將校ハ本分外ニ脱逸スヘカラストノ説ヲ爲シアリ

ハ、小官等ハ武力行使ニ關シテ前提第四ノ見解ヲ持シアルニ拘ラス小
 官等ヲ目シテ直接行動ノミ考ヘアル如ク誹謗スルハ畢竟小官等カ奮
 然蹶起スルコトアレハ自己自身ノ地位ヲ顛覆セラルルモノト危惧セ
 ルカ^然否ヲスンハ自身ノ陰謀的國體無視ノ「クーデター」ハ當然小官
 等ノ持論ト衝突スルヲ以テ自ラノ陰謀ヲ棚ニ上ケ盡ク小官等ヲ誣罔
 スルモノナルヘシ

以上ノ如キハ理論的對立ト謂ハンヨリ寧ロ感情的ノモノニシテ自己擁
 護ノ見地ヨリ小官等ヲ目シテ危險分子ト考ヘ各種ノ表面的口實ヲ捏造
 シテ不純分子ト惡罵シ極力小官等ヲ排擠スルニ努ムルモノナルヘシ

四 小官等ハ刻下ノ方策トシテ現陸相林大將ヲ首班ニ眞崎、荒木兩大將ヲ

其ノ羽翼トシ陸海ヲ提携一體トセル軍部ヲ中心主體トスル舉國內閣ノ
現出ヲ願望シ大權發動ノ下ニ軍民一致ノ一大國民運動ニヨリ國家改造
ノ目的ヲ達成セントスルニ對シテ彼等ハ、南、松井ヲ主班トスル軍政
府ヲ樹立シ戒嚴令下軍中央部ノ企畫統制ノ下ニ軍隊及國民ヲ馳驅シテ
國家改造ヲ成就セント企圖シアリ

而シテ小官等ハ軍其者ノ組織體ヲ動かサントスルト林、眞崎、荒木、
大將ノ無私誠忠ノ人格ニ推服スルカ故ニ三大將ヲ口ニスルニ對シ彼等
カ姻戚關係、金錢關係ヲ疑ハシムル南大將、松井大將ヲ推戴スル點ニ
於テ重大ナル一個ノ對立原因ヲ爲スハ注目ニ價ス

註、中谷武世カ主權スル國家改造團體ナル大亞細亞協會事務所内ニ
ハ臺灣支部ナルモノアリ前臺灣軍司令官松井大將カ同協會臺灣支部
ニ對シ臺灣軍司令部ヲシテ金錢的支持ヲナサシメタル風評アリ

コノ金力中谷ヲ通シ片倉、辻等ニヨツテモ利用セラルルモノナルコト又想像ニ難カラス

又南大將ト片倉少佐トハ姻戚關係ナリ

以上ヲ通覽シ且從來觀察感得セルコトヲ綜合スルニ彼等ハ彼等自身ノ功名心ト小官等ニ對スル嫉視ヨリ發シテ斯クノ如キ對立感情ヲ醞釀スルニ至リタルモノナルコトヲ斷定セシムルモノアリ而シテ此ノ嫉視反感ハ次ノ如キ事實トナリテ表現セラレ來レリ

一昭和八年秋冬ノ頃參謀本部、陸軍省ノ大尉級十數名ニテ國家改造計畫ヲ作製シ夫夫上司ニ對シ意見トシテ具申セシコトアリ

而シテ右計畫作製者ノ一人ナル中山源夫大尉方將校生徒校外休憩所ニ於テ士官學校生徒ヲ集メ講演シタル所ニヨレハ國家改造ヲ力説シタル後斯クノ如キコトハ若イ者ノ考フヘキコトニ非ス三十歳ヲ越エシ者ニ

非サレハ關與スヘカラス陸軍省ハ參謀本部ニ於テ計畫立案シ著々實行
中ナルヲ以テ紊リニ青年將校ノ所說ニ惑ハサルコト勿レト云ヒシコト
アリ又其ノ頃辻大尉ハ金澤方面ニ出張シ自己ノ原隊ナル步七ニ於テ聯
隊長始メ將校團全員ニ對シ國家改造ノ要ヲ論說シ中央部ニ於テ目下銳
意畫策中ナルヲ以テ軍隊ハ中央部ノ命令一下發動セヨ夫レ以前ニ騷々
シクガタ々々スルハ不可ナリ隊附將校ハ一意專心隊務ニ勉勵スヘシト
説キ其ノ後北、西田ノ惡罵ヨリ小官等一同ニ對スル非難ニ論及シ更ニ
同隊ノ市川少尉ヲ衆前ニ於テ誹謗セリ
ニ右辻大尉ノ話ヲ耳ニシ小官ハ同人方小官等ニ對シ誤解シアル點多キヲ
感シ其ノ誤解ヲ是正スルヲ必要ト思ヒ同人ヲ往訪セルコトアリ同時多
少誤解ヲ改メタル如キモ尙大藏大尉、市川少尉ノ惡口ヲ止メサリキ
昭和九年初頃步四一相澤三郎中佐方中耳炎ヲ患ヒテ東京某病院ニ入院

中同中佐ヲ見舞フ爲上京シタル步六一岸頼好大尉カ同目的ニテ同所
 ニ來訪シタル眞崎大將ニ遇然拜眉シテ僅カニ數語ヲ交ヘタル事方如何
 ナル譯カ片倉少佐ノ知ル所トナリ大岸大尉ハ歸隊後中央部ノ命令トシ
 テ師旅團長ヲ經、聯隊長ニヨリテ右會見ノ經緯内容ニ就キ詳細ニ訊問
 セラレシコトアリ右ハ片倉少佐ノ策動ナルコト略々明瞭ナリ
 辻大尉ハ滿洲ニ出張セル際（時期ハ不明）菅波三郎大尉ト會見シ意見
 完全ニ一致シタリト稱セシコトアリ而モ其ノ一方ニ於テ大藏、村中ノ
 輩ハ不純ナリト云フ是レ考ヘ様ニヨリテハ反聞苦肉ノ策ト見ルコトヲ
 得ヘシ

兵昭和九年十月新聞班ヨリ「國防ノ本義ト其ノ強化ノ提唱」ナル「パンフ
 レット」發行後陸軍當局ノ此ノ決意ヲ支持推進セントシテ右「パンフ
 レット」發行ノ眞意ニ就キテ新聞班員ノ講話ヲ聞ク會合ヲ開催セント

シテ辻大尉ニモ參會ヲ案内セシニ「パンフレット」發行ノ經緯ハ知悉シアルヲ以テ參會スルノ要ナシトノ返事ニシテ片倉少佐ハ斯クノ如キ會合ヲ催スハ生意氣ナリト憤慨シアリト聞ケリ

以上ノ如キ因由竝事實ヲ辿リテ考察スルニ兩人ハ小官等ニ對シ釋然タラサル所アリテ此ノ感情ヨリ發シテ小官等ヲ排陥セント欲シテ「スパイ」ヲ潛入セシムルコトヲ考案シタルハ實ニ故ナキニ非サルナリ

而シテ其ノ目標トスル所ハ單ニ小官等ノ如キ輕輩ニ非スシテ其ノ最終ノ目的ハ必スヤ林、眞崎、荒木三大將及其ノ餘ノ荒木派ト目セララル人ニ累及セントセシコトハ推想ニ難ラサル所ニシテ其ノ片鱗ト見ルヘキモノハ今後論述スル中ニ於テ處々散見スルトコロナリ

其三、佐藤候補生ヲ密偵ニ使用セル證據

士官候補生佐藤勝郎ハ何ノ必要アリテ他ノ四候補生及小官等ニ接近セ

シカ又如何ナル必要ヲ感シテ小官ニ迫ツテ直接行動計畫ヲ訊キ正サ
 トシタルカ大イニ疑惑ノ存スル所ナリ同人カ實行計畫ナルモノヲ聞キ
 知ルヤ是レヲ辻大尉ニ密告セシ所ヲ見レハ同人ニ直接行動ノ意志ナキ
 ハ極メテ明瞭ニシテ實行計畫ナルモノハ佐藤一個人ニ付リテハ何等ノ
 必要ナキモノナリ
 又豫審官ノ讀ミ聞ケニヨレハ十一月十一日佐藤、武藤ノ兩候補生カ小
 官宅ヲ來訪セシトキノ佐藤ノ考ハ青年將校ニハ實行計畫ナク若シアリ
 トスルモ打テ開ケルコトナカルヘキヲ以テ小官ニ計畫説明ヲ強要シ其
 ノ答ヘラレサルヤ四候補生ヲシテ青年將校ト手ヲ切ラシメ彼等ヲ救ハ
 ント考ヘタル如ク申シ述ヘシハ一應ノ理由ノ如クナルモ彼ノ行動ハ全
 ク此ノ目的ニ背馳スルモノニシテ是レ極メテ愚劣ナル口實ニ過キサレ
 コト以下論證スル所ニテ明白ニ示シテ實行計畫ハ佐藤ニトハ何等ノ必要

トスル理由ナク正ニ辻、片倉ノ指令ニ基キ計畫的ニ「スパイ」行動ヲ爲シタルモノナリト推斷スヘキナリ

一昭和九年十一月三日佐藤武藤兩人ノ來訪後直感セシコトハ佐藤ノ背後ニハ何者カアリテ之レヲ操縦シアルニ非スヤトノ疑念ナリ
此ノ疑念ヲ抱キタル第一ノ理由ハ初對面ノ小官ニ對シ佐藤ハ小官ヲ實行計畫ヲ擔任作製スル者ト指摘スルカノ言ヲ爲シ又實行計畫及其ノ決行時機ヲ矢繼早ヤニ執拗ニ質問セルコトナリ從來多クノ士官候補生ニ觸接セルモ僅々數回ノ面接ニテ理論的事項ヲ離レテ國家改造運動ノ實際問題ニ論及セルモノハ未タ嘗テナキニ係^拘ラス初對面ヨリ直接行動計畫ヲ説明セヨト要求シ又青年將校ノ内部事情ハ百モ承知トイフ態度ニ出テシコトハ實ニ不審奇怪ナル行ナリ理由ノ第二ハ佐藤ニ同志二十名アリコレヲ以テ近ク直接行動ヲ決行セント言ヒシコトナリ二十名ニ及

フ直接行動ノ決意者カ同期生中ニ存在スルコトヲ武藤候補生カ今日迄全然知ラスシテ空過セルモノトハ思考シ得サル所ナリ武藤ハ極メテ積極的ニ啓蒙運動ヲ爲セシ爲豫科生徒時代ヨリ注意人物トナリシ程ニシテ同傾向ノ二十名中ノ一人ニ今始メテ接觸スルヲ得タリトハ首肯シ得サル所ニシテコレ偵察ノ手段トシテ自分等士官候補生ニ直接行動ノ決意アリト云ヒシニ非サルカラ疑ハシメタリ而シテ背後關係アリトセハ必スヤ士官學校露語教官天野勇大尉ナルヘシト判断セリ當時斯クノ如ク想像セシメ印象ヲ小官ニ與ヘタル事實ハ今ニシテ考フレハ盡ク是レ辻政信カ此ノ時已ニ佐藤ノ背後ニ在リテ佐藤ヲ操縦暗躍セシメ「スパイ」行動ニ出テシメシヲ實證スルモノナリ

ニ同年十一月十一日佐藤、武藤兩候補生來訪時ニ於ケル佐藤ノ「スパイ」行動ヲ立證スヘキモノ次ノ如シ

イ、前述ノ豫審官ノ請ミ聞ケニヨレハ武藤外三名ノ者カ激化シアルヲ以テコレヲ匡救セント考ヘタルモノノ如クナルモ小官ノ觀察ニヨレハ當日武藤カ急轉直下ノ激變ニテ尖銳化シアリテ意外ノ感ヲナサシメタルハ從來毎日曜日ノ如ク武藤ト接シアリシ小官トシテ其ノ平常ヨリ推想シテ斯クノ如ク急變セル同人ノ尖銳化ハコレ實ニ佐藤ノタメ災キツケラレタル結果ナリト斷シテ誤ナキヲ信ス即チ四候補生ヲ匡救セント云ヒシハコノ事ヲ以テスルモ一片ノ口實ニ過キサルコト明瞭ナリ

ロ、佐藤ハ實行計畫ヲ探究セントシテ極メテ執拗ナル態度ニ出テタリ即チ

士官學校ヲ代表シテ計畫ヲ聞キニ來タレリ（士官候補生有志ヲ代表シテ來タレリノ意ナラン）計畫ヲ示ササレハ青年將校ヲ信用セス

五・一五事件ノ士官候補生ヲ青年將校ハ見殺シニセシニ非スカ士官候補生同志ノミヲ以テ臨時議會開會中ニ議會ヲ襲撃セン

等各種ノ手段言辭ヲ弄シテ計畫ヲ偵知セントスル態度ニ出テ小官ヲシテ益々背後關係ヲ強ク意識セシメタリ

而シテ豫審官ノ讀ミ聞ケニヨレハ小官カ實行計畫ヲ話シ聞カセント云ヒシ時佐藤ハ豫定計畫ヲトリ得又不安ヲ感シタリト稱シアルモ事實ハ然ラスシテ大イニ目的ヲ達成セルヲ喜ヘルカ如キ顔貌ナリキ

ハ、小官カ佐藤、武藤ノ兩名ニ對シ實行計畫ナルモノヲ即席ニ考案シテ大綱トモイフヘキモノヲ説明セシニ武藤ハ満足ノ色アリテ一言モ發セサルニ佐藤ハ是レニ満足セス種々質問探究シ實ニ根堀リ葉堀リ聞キ出サントスル態度ナリキ

尙佐藤カ拳銃ヲ貫ヒ度シト申シ出テタルハ何カ證據物件トナルヘキ

モノヲ入手セントセシモノナルヘク又鈴木貫太郎ト何等カノ關係アルヲ以テ同邸ヲ偵察セント申シ出テシハ小官ヨリ實行ノ準備命令ヲ受領セリトノ口實ニセントスル魂擔^マニアラサルカ又武藤カ今ヨリ軍刀ヲ準備シ度シト云ヒシ時即座ニコレヲ利用シ今ヨリ軍刀ヲ準備シテ決行時機迄ニ間ニ合フヤト質問シ時機ヲ探究セントセシ行動ノ如キ佐藤カ前掲ノ如ク四候補生ヲシテ小官等ヨリ手ヲ切ラシメント欲シタル目的トハ相隔タルコト甚タ遠ク目的トハ全然合致セサル行動トイフヘクスクノ如キ理由ハ實ニ取ルニ足ラサル口實ニ過キサルハ極メテ明白ナリ而シテ一士官候補生トシテ斯クノ如キ迄ノ勞作ヲ敢テシテ實行計畫ヲ聞キ出サントスルハ全ク理由モ根據モナキ不必要事ニシテ辻ニ使曠利用セラレタルハ蔽ヒ得サル事實ナリ又證據物件ノ入手、準備命令ノ受領等實ニ一士官候補生ノ頭腦ヲ以テ突^マ差ノ間

ニ考へ出シタルモノニ非スシテ辻カ豫メ注入シタル豫備智識ニ基ク
モノアラサルカラ疑ハシム

三十一月十八日ハ佐々木、荒木、次木、佐藤ノ四候補生ノ來訪ヲ受ケシ
モ當日佐藤カ重ネテ來訪セルハ前週説明セルコトヲ更ニ確メル以外ニ
理由ナキコトニシテ當日ニ於ケル佐藤ノ態度ニ照シテ再度計畫ノ内容
ヲ確メ特ニ決行時機ヲ偵知スルヲ主目的トセルモノト斷定シ得例ヘハ
「時機ハ未タ決定シ得マセンカ」「臨時議會ニハヤリマセンネ」「ソ
ウスルト來年三月テスネ」ト云フカ如キ質問ハ小官ノ説明ヲ正シク聽
取シアレハ到底口ニシ得サルコトナリ時機ヲ偵知スヘシトノ命令ヲ忠
實ニ遵奉シタル結果小官カ時機ハ原則的ニ抽象的ニハ考へ得ルモ時日
ヲ今ヨリ決定シ得ルモノニ非スト再三説明セルニ満足シ得ス尙歸リ際
殊更佐藤一人ノミ引キ返ヘシ聲ヲヒソメテ「ソウシマスト臨時議會ニ

ヤリマセンネ」時機ヲ決定シテ貰ハナケレハ同志獲得ニ巧遅主義ヲ
トルヘキカ拙速主義ヲトルヘキカラ決定シ得ナイカラ困ル」ト云ヒテ
重ネテ決定的時機ヲ小官ヨリ探知セントセリ
斯クノ如キハ佐藤一個人ニトリテハ明カニ全クノ不必要事ニシテ辻ノ
指令ニ基クモノナルハ推斷ニ難カラス又林、荒木、眞崎三大將ト何等
カノ關係アル如ク装ヒ連絡任務ヲ自ラ引キ受ケント申シ出テシコトノ
如キ故意ニ三大將ト小官等トノ直接關係ヲ立證スル證據ヲ握リ小官等
ヲ排擠スルト同時ニ三大將ニモ及ハントスル魂膽ヨリ發シテ辻カ斯卡
ルコトヲ佐藤ニ内示セルモノト判斷シ得ラルル事項ナリ
以上本節ニ於テ縷述セル所ヲ通覽スレハ辻カ最初ヨリ計畫的ニ佐藤ヲ密
偵トシテ使用セルコト顯然タルモノアリ

其四、佐藤ノ偵知事項ヲ故意ニ歪曲捏造セル證據

昭和九年十一月三日ノ佐藤トノ初對面ニ於テ小官ハ佐藤ノ背後關係ニ關シ疑念ヲ抱キ同月十一日ニハ是レニ就キ一層強キ印象ヲ受ケシヲ以テ佐藤、武藤兩人ニ實行計畫ナルモノヲ示ス必要ヲ感シ架空ナ「計畫」ヲ即成シコレヲ兩人ニ示シ慰撫セント考ヘシ時小官ハ假令是レカ問題化スルコトアルモ一個ノ空中樓閣ニ過キサルヲ以テ大ナル顧慮ヲ要セスト雖萬一惡用セラレタル場合ニ於テモ小官等ノ立場ヲ失フ羽目ニ陥ラサランコトニ注意シ從來屢々喧傳セラレタル直接行動ニ關スル「デマ」ノ範圍ヲ出テサルニ努メタリ從ツテ佐藤ト對話セルトコロノ内容ニヨツテハ假令コレハ實在スルモノト思考セララルモ斷シテ司法問題ヲ惹起シ得ヘカラサルモノナルヲ小官ハ確信スルモノナリ從ツテ佐藤ノ偵察内容其ノ儘ヲ以テハ斷シテ小官等ヲ排陷スルノ資料タリ得ス茲ニ於テ辻、片倉等ハ佐藤ノ報告セル小官ノ談話内容ヲ全ク歪曲改竄シ唾棄スヘキ内容ノ陰謀計

畫ニ之レヲ捏造シ之レヲ以テ陸軍當局ヲ誣罔誑惑シテ司直ノ發動ヲ招來
 セシニ非スヤト判斷スルモノナリ是レ單ナル憶測ニ非ス豫審官ノ讀ミ聞
 ケニナリシトコロニヨレハ佐藤ノ陳述ハ重要部分ニ於テ盡ク歪曲シ或ハ
 全ク改變捏造シアリテ如何ニ善意ニ解スルモ誤解誤聞ノ範圍ニ非サルコ
 ト以下指摘スルカ如クニシテ是事ヨリ歸納シタル至公至平ノ結論トシテ
 小官ハ敍上ノ如ク片倉、辻等カ故意ニ改刪捏造シテ虚偽ノ申告ヲナセル
 モト斷定シテ憚ラサルナリ
 一 佐藤ハ實行計畫中ニ鶴見、赤座、田尻、戸次各中尉ノ名ヲ羅列シア
 ルモ是等ハ計畫ノ説明間小官ノ全ク口ニセサル氏名ニシテ他ノ談話間ニ
 佐藤カ耳ニセル名ヲ連ネテ計畫中ニ挿入セルモノナルヘシ祭スルニ是
 レ新登場人物ニ迄羅織ノ手ヲ延ハシメントスル術策ト見做スコトヲ得
 爾モノナリ

大森一聲ヲ舉ケシニ至ツテハ最モ理解ニ苦シム所ニシテ佐藤ニ對シ全
 然口ニセルコトナキ此人物ノ名ヲ如何ナル經緯ニテ麗々シク計畫中ニ
 掲クルニ至リシカ疑念ニ堪エサル所ナリ
 二實行計畫ノ目的トシテ帝都ヲ不安ニ導キ擾亂ニ陷レ戒嚴令ヲ宣布シ軍
 政府ヲ樹立スト佐藤カ述ヘシコトハコレ正ニ橋本欣五郎、池田純久、
 天野勇乃至片倉、辻等ノ口吻ニ非サルカ小官等ハ萬民ノ安泰ヲコソ念
 トスルモノニシテ庶人ニ塗炭ノ苦シミヲ嘗メシムルカ如キ方法ヲ以テ
 國家改造ニ導入セントスルカ如キコトハ屑シトセサル所、況ンヤ上ニ
 至尊ノ在スコトヲ知ラサルカ如キ語調ヲ以テ戒嚴令ヲ宣布シ軍政府ヲ
 樹立ストハ小官ハ未タ嘗テ何人ニ對シテモ口ニセサル所ナリ軍政府ヲ
 樹立シ獨裁權ヲ揮ハントハ橋本以下前掲ノ者ノ久シク念願シテ渝ラサ
 ル所ニアラスヤ

此ノ一點ヨリ判斷シテモ彼等カ自ラノ頭腦ヲ以テ小官等ニ擬シ以テ小官等ヲ羅織斷罪セント欲シテ却テ自ラノ馬脚ヲ露ハス結果ニ陥リシハ實ニ瞭然タルモノナリ

三時機問題ニ關シ佐藤ハ早ケレハ臨時議會或ハ其ノ直後、遅クトモ來年一月初メ頃、場合ニヨツテハ一年後或ハ二年後ト述ヘアルモ時機ニ關シテハ小官ハ大義名分ヲ樹テ國體ヲ擁護スルヲ要スル事態ニ於テ始メテ蹶起スルモノナリト原則的ニ考定シ得ヘシト説キ其ノ一例トシテ軍ヲ中心主體トスル内閣出現シ改造ニ着手セハ國體逆行爲ヲ惹起スルカ如キ反動アルヘシト想像的説明ヲナシ且佐藤カ再三、再四「臨時議會ニハヤリマセンカ」「ソウスルト來年三月テスネ」「時機ヲ明示シテ貰ハナケレハ同志獲得方法ノ遲速ヲ決定シ得ナイ」等等煩サク質問セルニ對シ時機ハ原則的ニ前述ノ如ク考ヘ得ルノミナルコトヲ反覆説

明セル所ニシテ臨時議會トカ來年一月等トイフコトハ小官ノ談話中ノ如何ナル部分ヨリスルモ誤解ヲ來スヘキモノナシ如何ナル低腦幼稚ノ者ト雖斯クノ如キ誤聞ヲナストハ考ヘ得ヘカラス若シ時機ニ關シ斯クノ如ク明確ニ小官ヨリ示サレタルモノト考ヘタリトセハ何ンノ必要ト理由トアリテ十八日執拗ニ時機ヲ偵知セントスル態度ニ出テ且十八日辭去前ニ一人丈ケ引キ返ヘシテ「ソウシマスト臨時議會ニハヤリマセシネ」一時機ヲ決定シテ貰ハナケレハ同志獲得ノ遲速ノ程ヲ決定シ得ナイ」トノ質問ヲ小官ニ向ツテ發スル要アランヤ此ノ一事ニ至ツテハ上司ヲ騙ツテ急遽小官等ヲ處斷セシメントスル方便トシテ臨時議會トイフ目睫ノ間ニ迫レル時機ヲ決定的ニ報告シタルモノナリト判斷スル以外考ヘ得ヘカラサルモノナリ

四 佐藤ハ本計畫ハ上部ト連絡シアリト小官ヨリ聞キタリト述ヘ又步兵學

校ニ於テモ計畫カ解ラヌ爲動搖シアリト戸次中尉ヨリ聞キタリト陳ヘ
シコトハ此ノ事ノミヲ以テ判斷スレハ單ナル誤聞トシテ介意スルニ足
ラサル事項ナルモ前諸項ヲ參照シテ考フルトキコレ亦實行計畫ノ實在
性ヲ裏書キセントスル一方策ト見做スコトヲ得ルモノナリ殊ニ上部ト
連絡シアリトイフ上部トハ林、荒木、眞崎三大將ヲ意味スルモノニシ
テ此ノ點小官等ヲ排陷スルコトヨリ延イテ是等上部ノ人ニマテ波及セ
シメ以テ其ノ失脚ヲ來サントスル底意ナリトモ判斷シ得ルコトナリ
又佐藤ハ十一日小官ヨリ計畫實行後陸軍部内ノ惡イ者ヲ掃蕩スルト聞キ
又十八日ニハ質問ノ結果惡イ者トハ南、松井兩大將ヲ指スモノナルコ
トヲ確メタリト稱スルモ是レ兩回トモ小官ノ全然口ニセサル所ニシテ
斯クノ如キコトヲ作爲捏造セル所以ノモハ要スルニ清軍運動ハ一派
ヲ躍ラセテ小官等ニ對シ鋒ヲ揃ヘテ共同戦線ニ出テシメント企圖セル

ト又一方ニ於テハ部内ノ悪者ノ中ニ算入セラレアルニ非スヤトノ疑心
 暗鬼ノ中央部幕僚ヲ驅ツテ斷然小官等ニ鐵鎚ヲ加ヘシメントスル陷穽
 タラスンハアラス

六 小官等士官候補生ニ對シ六ヶ條ノ指令ヲ發シタリトリシテ麗々シク羅
 列喧傳セシコトニ至ツテハ佐藤自身モ述ヘシ如ク是レ皆小官カ士官候
 補生ニ對シ談話セシ事項中ノ一節ヲ捉ヘ來シテ轉化捏造シ而モ斯クノ
 如ク指令ト銘ヲ打チ六ヶ條ヲ羅列シ宛モ準備命令トシテ士官候補生ニ
 指令シタル如ク裝ヒ以テ計畫ノ實在性ヲ實證スルト共ニ既ニ準備行動
 ニ移リタルモノトシテ當局ノ處斷ヲ促シタルモノト見ルヘク此事ニ至
 ツテハ許スヘカラサル誣罔ト云フヘシ

七 小官カ澁川善助ニ對シ拳銃四挺ヲ手交シタリト佐藤カ陳述セルハ強イ
 テ善意ニ解スレハ誤聞トナシ得ヘキモ前諸項ヲ參酌スルトキ是亦轉化

作爲セルモノト斷言シテ憚ラサルナリ
以上七項ヲ通覽スルニ小官ノ談話中目的、時機等最重要ナル點ヲ擧ケテ
盡ク作爲捏造セルモノニシテ斷シテ誤解ニアラサルハ極メテ明瞭ナリ
而モ右佐藤ノ陳述ヲ讀ミ聞ケニナリシ後武藤ノ陳述ヲ讀ミ聞ケラレタリ
コレニヨツテ考察スルニ武藤ノ陳述ハ多少ノ誤聞ト士官學校ニ於ケル訊
問ニヨリ多少佐藤ノ說ニ引キツケラレタリト疑ハルル點ナキニアラサルニ
モ重要部分ニ於テ殆ント小官ノ述ヘシ所ト符節ヲ合スル如クナルニ係ラ
ス同一事項ヲ二度反復耳ニセル佐藤カ小官ノ陳フル所ト全ク表裏ヲ異ニ
スル所說ヲナスハ實ニ意外トスル所ニシテ直覺的ニ小官等ヲ排陷センカ
爲ノ作爲誣罔ナルコトヲ感知セシムルモノナリ
而シテ斯クノ如キ捏造ハ佐藤候補生一人ノ能ク爲ス所ニアラスシテ片倉
辻ノ作爲カ否ラスンハ辻、佐藤ノ合作ナルコトハ敢テ想像ニ難カラサル

所ナリ

其五、片倉、辻兩人カ軍當局ヲ動カシ行政處分ヲ

行ハシメントセル證跡及其論證

以上ノ事實ヨリ推論スルニ小官カ佐藤等士官候補生ニ向ツテ談話セシコ

トノ内容其儘ヲ以テハ到底軍刑法ニヨリテ斷罪シ得サルコト明白ナルヲ

以テ片倉、辻ハ行政的解決ヲ企圖シ夫々當局ニ向ツテ策動シタルモノナ

ルヘク而モ佐藤カ小官宅ニ於テ諜知シタル事項ノ類ハ十月事件以降直接

行動乃至「クーデター」論トシテ既ニ俚耳ニモ洽ク軍部ノ上下ハ勿論民

間有志ノ間ニ於テモ日常茶飯事トシテ論議シアルコトニシテ今更問題視

スヘキコトニ屬セス況ンヤ兩人等自ラモ口ニシ企圖シアルコトナルヲ以

テ是レヲ以テシテハ到底當局ノ發動ヲ促スヘクモアラサルコト明瞭ナリ

茲ニ於テ佐藤ノ偵知事項ヲ基礎トシ是レヲ改竄歪曲遂ニ原形ヲ留メサル

ニ至リシノミナラス醜惡人ヲシテ嫌忌憎惡ノ念ヲ起サシムル内容ニ迄捏造シ是レヲ以テ上司ヲ誣罔シ茲ニ軍當局ノ發動ヲ見ルニ至リシモノナリ而シテ彼等ハモトヨリ檢察處分ニ迄發展スルヲ欲セサリシナルヘシ蓋シ彼等ノ作爲ハ當然昭々乎タル明鏡ノ前ニ其ノ假面ヲ剝カルヘキハ爲作者自ラカ最明確ニ意識スル所ナレハナリ然レトモ敍上ノ如キ作爲誣罔ハ當然ノ結果トシテモ司直ノ發動トナルヘク彼等ノ欲スルト欲セサルトニ係ラス現實ニ於テ小官等ヲ誣告シタルモノナルコトハ否ムヘカラサルモノナリトス

片倉、辻兩人カ三月十九日深夜本事件ヲ携ヘテ橋本陸軍次官ヲ往訪セルコトハ小官入所前專ラ風評セラレタル所ナリ何カ故ニ兩人カ陸軍次官ヲ選定シテ直接ニ誣告セルカ又何カ故ニ殊更十九日深夜ヲ選定セルカ大イニ疑惑ノ存スル所ナリ佐藤カ「スパイ」トシテ小官宅ヲ來訪セルハ前論

ノ如ク疑フ餘地ナク然ラハ十一月十一日歸校後或ハ翌十二日辻ニ偵察結
 果ヲ報告セルハ亦理ノ當然ニシテ十八日ニ於ケル佐藤ノ態度ヨリ察スル
 ニ其ノ報告ニ基キ更ニ辻ヨリ第二次ノ命令ヲ受ケ小官ヨリ各種ノ言質ヲ
 得ント焦慮セシコト推想ニ難カラサルヲ以テ十一日或ハ十二日ニ於テ辻
 ニ報告シタルモノナルコトハ明確ニ推斷シ得ヘシ然ルトキ辻ハ斯カル重
 大事項ヲ何カ故ニ上司ニ即刻報告スルコトヲ爲サスシテ一週日ヲ空過シ
 其ノ間一士官候補生ヲ驅使シテ再偵察ヲナサシムルニ留マリシカ何カ故
 ニ一刻モ速カニ司直ノ手ニ移シテ捜査ヲ開始セシムルコトヲ爲サスシテ
 十九日ヲ待チ而モ深夜突然橋本次官ヲ往訪セシヤ實ニ一大奇怪事ト謂ハ
 サルヘカラス小官ノ推測ヲ以テスレハ是レ畢竟國家改造運動ノ内面事情
 ニ全ク不案内ナル橋本次官ヲ特ニ選定シ臨時議會開催ノ直前ナル十九日
 而モ深更ヲ利用シテ不意ニ橋本次官ヲ訪ヒ是レヲ警倒駭目セシメ如何ニ

モ一大陰謀カ目睫ノ間ナル臨時議會ヲ目標ニ著々準備セラレアリト信憑
セシメシモノナランカ彼等ノコノ作戰ハ明カニ成功セルコトハ其後橋本
次官カ周章トシテ本問題解決ニ著手セルニ照シテ論證シ得ル所ナリ抑々
本問題ノ如キ若シ佐藤ノ述フル如クンハ到底士官學校單獨ニ處理シ得ル
モノニアラス當然極秘裡ニ且最迅速ニ上申シ司直ノ發動ヲ待ツヘキモノ
ナリ何ヲ求メテ辻一個人カ職責上何等ノ關係ナキ片倉ノ許ニ走り更ニ陸
軍次官キ深夜衝動セシムルノ理アラシヤ辻大尉トシテハ十九日夜ハ當然
徹宵校内ニアリテ取調ヘニ從事シ順序ヲ經校長ヲ通シテ所要ノ搜查、處
置ヲ行フ爲一步モ校門ヨリ出テ得サル状態ナルヲ至當トス而シテ順序ヲ
經ルイトマナキ焦眉ノ急ヲ要スル問題ナリト辯解スルナラハ何カ故ニ十
一日或ハ十二日佐藤ヨリ報告ヲ受ケシ時直チニ上司ニ報告セサリシカ小
官ハ茲ニ於テ論斷セン片倉、辻兩人ハ密謀ノ結果殊更計畫的ニ發表時機

ヲ留保シ置キ唐突ニ軍當局ヲ衝動シ當局ノ感受スル錯覺幻影ヲ大ナラシ
 メ決然一網打盡ノ掃滅ヲ小官等上ニ加ヘシメント欲セシモノニシテ彼等
 本來ノ目的ハ行政處分ニヨリ陸軍ヨリ小官等ヲ驅逐スルノ決意ヲ當局ニ
 トラシメント欲セシモノナルモ其ノ誣罔捏造ノ結果カ當然ニ司直ノ發動
 ニ至リシモノニシテ何レニセヨ小官等ヲ誣告スルノ結果ニ立チ至リシハ
 覆フヘカラル事實ナルヲ斷言シテ憚ラサルナリ

其六、結論

以上ヲ要約スルニ片倉、辻兩人ハ從來ヨリ小官等ニ對シ敵意ヲ表シアリ
 シカ辻ノ志願達成シテ士官學校中隊長トナルヤ忽チ腹臣トナルヘキ生徒
 ヲ作りコレヲ密偵ニ仕立テ小官等ノ内部ヲ偵察セシメ特ニ直接行動實行
 計畫ノ有無ヲ探索セシメリ偶々小官カ即成架空ノモノヲ呈示スルヤ得々
 リ賢シトナシ尙重ネテ偵察ヲ命スルト共ニ其ノ偵知内容ヲ改竄シ當局ヲ

シテ決意發動シ得ル如キ程度ニ作爲捏造シ機ヲ見テ軍首腦部ニ迫ツテ當局ヲ衝動セシメ速カニ處斷セシメント策動セシコト明瞭ニシテ遂ニ司直ノ發動トナリシモノナルヲ斷定シテ疑ハサルナリ

而シテ單ニ小官等末輩ニ對シ双ヲ向クルハ所期ノ大目的ニアラスシテ必スヤ林、荒木、眞崎及其ノ他ノ諸將軍ニ迄波及セシメント欲セシハ疑フ餘地ナシ而モ此ノ目的ノ爲單ニ片倉、辻兩人カ策動セシニ止マラス陰邪醜惡ノ徒之レニ附和シ雷同シテ嫉視排擠ノ爲ニ馳驅奔走セルモノ多キハ入所中風評ノ耳ヲカスメルモノ鮮シト雖彼從來ノ動向ニ鑑ミ尙推想感知セシムルモノアリ

斯クノ如キ皇軍内部ニ低迷暗流スル不快ナル空氣ノ一掃ハ本事件ヲ契機トシテ斷乎決行セサルヘカラサル所此ノ機會ニ於テ片倉、辻兩人ノ行動ヲ判然タラシメ其ノ背後ノ密雲妖氣ヲモ照出セラレンコト切切願望ニ堪

へサル所ナリ是レ小官カ敢テ片倉、辻兩人ヲ小官ニ對スル誣告ノ故ヲ以テ告訴スル所以ナリ

尙小官入所後ニ於テモ此ノ間ノ事情ヲ判明スルニ足ル資料ハ相當世上ニ流布セラレアルコト必然ト思考ス冀クハ陸軍戸山學校教官陸軍歩兵大尉大藏榮一ニ就キ詳細訊問アリタク又磯部淺一及佐々木、次木、荒木、武藤ノ四候補生ハ佐藤候補生ニ關スル小官前述ノ言ヲ立證シ得ル材料ヲ有スヘシト思考シ得ルヲ以テ右五名ニ就テモ喚問ノ程願ヒ奉ル 以上

(附録第三)

昭和十年四月二十四日

片倉少佐
辻大尉

ニ對スル告訴追加

村中
大尉

我陸軍部内ニハ數年來成種ノ派閥的觀念ヲ以テ國家改造ヲ企圖スル私黨的結成ノ一群カアツテ此ノ一群ハ私共ト思想信念ヲ異ニスル所ヨリ又單ニ彼等ニ隨從シナイトイフコトヨリシテ其ノ公的地位ヲ利用シテ不斷ニ壓迫ヲ試ミ又私的策動ニヨリ絶エス排擠ヲ事トシテ來テキマス今回ノ誣告事件ハ私的策謀ト公的權力亂用トノ結托シタ所ノ彼等ノ陰謀ノ一ツノ現ハレテアリマス從ツテ本事件ノ性質ヲ明カニスル爲二月七日附ヲ以テ呈出致シマシタ告訴狀ト重複スル嫌ハアリマスカ以下彼等ノ思想行動ノ大要ヲ事實ニ立脚シテ申述ヘ本件ノ依ツテ來ツタ由來經緯ヲ明カニシ次ニ誣告ノ事實ヲ申述ヘタイト思ヒマスキハ茲山土五本赤イ式ヨリ附録シ

第一、統制派、清軍派ノ人的關係ニ就イテ

陸軍部内ニ於ケル派閥、對立關係ニ就イテハ私共ニ對スル豫審ニ於テ詳

シク申述ヘタ通テ所謂清軍派ト云フモノハ十月事件以來荒木派トモイフヘキ人士ノ打倒私共青年將校ノ掃滅ヲ當面ノ目的ニシテキル所ノ十月事件ノ中心的人物テアリ統制派トイフヘキハ表面上荒木系ト云ヒ清軍派トイフ對立ノアルヲ非トシ軍中央部ノ一糸紊レサル統制ノ下ニ國家改造ニ進マントスル一團テ現ニ中央部ニ占據シテ國家改造ヲ考ヘテキル人々テアリマスカ現在ノ傾向カラ見ルト實ハ清軍派ト共ニ荒木派及私共青年將校ヲ打倒排撃セントシテキルモノテ清軍、統制兩派ノ人的關係ニ於テハ兩者ニ相通スルモノカアリマスカラコノ兩派ハ峻別スル事ナク一ツノモノト見ルコトノ出來ルモノテ少クトモ私共ニ對スル關係ニ於テハ常ニ共同戰線ヲ張り來ツタモノテアリマス雜誌「維新」昭和十年一月號ニヨリ此ノ派ニ屬スル人ヲ列擧スルト次ノ通テアリマス

關東軍司令官 南 次郎大將 軍事參議官 松井 石根大將

| | | | | | | | | | | |
|----------|--------|---------|-------|-------|----------|---------|-----------|------------|---------|-------|
| 關東軍憲兵司令官 | 朝鮮軍司令官 | 對滿事務局 | 露西亞班長 | 新聞班長 | 步兵第四十九聯隊 | 第十六師團參謀 | 步兵第四十一聯隊長 | 三島重砲兵聯隊長 | 第二十四旅團長 | 第五師團長 |
| 岩佐 | 植田 | 片倉 | 神田 | 根本 | 今田新太郎少佐 | 長 | 樋口季一郎大佐 | 橋本欣五郎大佐 | 東條 | 小磯 |
| 綠郎少將 | 謙吉大將 | 衷少佐 | 正種中佐 | 博大佐 | 關東軍參謀 | 勇少佐 | 第六師團參謀佐藤 | 第十一師團參謀長重藤 | 英機少將 | 國昭中將 |
| 橋本次官 | 臺灣軍司令官 | 軍事參議官 | 在廣東 | 前調查班長 | 田中 | 駐支武官 | 幸德中佐 | 板垣征四郎少將 | 關東軍參謀副長 | 第十師團長 |
| 永田軍務局長 | 寺內 | 渡邊錠太郎大將 | 白田 | 坂西 | 田中 | 影佐 | 千秋大佐 | 建川 | 建川 | 建川 |
| 橋本軍事課長 | 壽一中將 | | 寬三中佐 | 一良大佐 | 降吉中佐 | 禎昭少佐 | | 美次中將 | | |
| | | | | | | | | | | |

尙同誌ニハ「地方部隊ニ於ケル尖銳ナル青年將校ノ多數カ統制派ヲ支持シテキルコトハ勿論テアル否清軍運動ノ主體ハ寧ロ之等ノ尖銳ナ青年將校タトイツテヨイノタ」ト論シテキマスカ地方青年將校トシテ指ヲ屈スヘキハ

廣島歩十一 杉本大尉 電信二常岡大尉 其他數名

テ尙中央部ニハ

鈴木京大尉 木下秀明大尉

等カ居リ辻政信大尉、塚本憲兵大尉モ亦其一人ニ數ヘラルヘキ存在テアリマス

第二、統制派、清軍派ノ思想、行動ノ大要及

私共ニ對スル排撃ノ經緯

統制派、清軍派ノ人人カ前述ノ如ク如何ニ私共ノ排撃ニ努力シテ來タカ

又其ノ對立行爲ノ背景ヲナス彼等ノ思想ハ如何テアルカニ就テ以下大要ヲ列舉シテ申述ヘマス

一 三月事件ニ就テ

所謂三月事件トイフモノハ昭和六年二月乃至三月頃統制派清軍派ノ重ナル人々ニヨツテ企圖サレタ「クーデター」テアツテ其ノ計畫ノ大要ヲ申シマスト當時開會中テアツタ帝國議會ヲ民間ノ浪人壯士テ襲撃セシメ左翼政黨其ノ他ヲ動員シテ國民的示威運動ニ使ヒ混亂ヲ惹起シ軍隊ヲ出動セシメ彈壓戒嚴ヲ強行シ宇垣陸相ヲ首班トスル軍政權ヲ樹立シ改造ヲ斷行シヤウトシタ模様テアリマス

右ハ民間ノ一團ニ議會襲撃、社會混亂ヲ敢行セシメ是レヲ好機口實トシテ軍隊ノ出動ヲ敢行シ軍政ヲ強要シ以テ國家改造ノ名ニ於テ自分等一群カ國政ヲ盜マントシタモノテ即チ天皇ノ兵馬ノ大權ト政治ノ大

權トヲ欺キ奪ハントシタ中世武門政治時代ニ等シキ國體破壊ノ逆臣的
思想行動テアルト思ヒマス

世情ニ憤ツテ法ヲ破ルヲ辭セス一身ヲ以テ國家ノ前途ニ獻ケルト云フ
ナラハ私共皇國維持ニ奉公ノ志アルモノトシテ共鳴シナイテハアリマ
セン然ラハ五・一五事件ノ如ク自ラ挺身シテ危キニ當リ法ノ前ニ立ツ
テ死ヲ甘受スルノ途ニ出スル外ニアリ得ナイト信シマス然ルニ部外ノ
一團ヲ使喚シテ數百人ノ議員役人ヤ何等ノ罪ナキ傍聽者警官等ヲ殺傷
セシメ自ラハ暴徒鎮壓ノ美名ヲ選ヒトツテ專制ヲ強要スルコトハ上
至尊ヲ欺キ陷レ下赤子萬民ヲ殘虐シ皇國軍人ノ本領ヲ蹂躪シテ我國體
ヲ根底カラ顛覆セントスル卑劣陰慘ナ未曾有ノ大逆不逞計畫テアルト
考ヘマス

之レカ架空ノコト無智、赤化ノ徒ノシタコトテナク時ノ陸軍大臣カラ

軍中央部ノ中堅タル幕僚將校多數ヲ以テ極メテ大仕掛ニ具體化サレテ
 キタモノテ今日ニ至ル數年間部内ニ於テ國家改造ヲ云爲策動スル大部
 分ノモノハ重ニ此ノ事件ニ關係シタモノカ或ハ新シク出現シテ是等ノ
 人々ニ追隨附和スルモノカテアリマス私共ハ三月事件ニハ全然無關係
 テアルノミナラス斯カル思想行動ニハ斷シテ同意カ出來ナイノテアリ
 マス

ニ十月事件ト其ノ後ノ情況ニ就テ

昭和六年十月事件ハ三月事件ニ於テ中堅的ニ行動シタ人物及櫻會ノ急
 進過激ナ一部カ建川中將、小磯中將等ヲ背景トシテ永田鐵山少將、田
 中清少佐、池田純久少佐等ヲ建設案方面ノ協力者トシテ改メテ計畫シ
 タモノテ部外ノ浪人壯士ヲ使フ代リニ當時對滿問題ニ直面シテ興奮シ
 テ居タ青年將校ヲ巧ミニ操ラントシタモノテ如何ナル計畫テアツタカ

ハ當時參集シテ居タ私共青年將校ニハ未タ不明テアリマス當時私共ハ
世情ニ憤激シ維新ニ奉公セントスル考ヘカラ參集シタノテアリマスカ
唯々無暗ニ待合、酒席ニ會合シテ幕僚側ノ大言壯語ヲ聞カサレタリ
（註待合酒席ノ場所時日等新京警備司令部菅波大尉カ詳シク知ツテキ
ルト思ヒマス）誓約ノ血判（註十月十五日夜澁谷銀月ニ於テ）ヲセラ
レタリシタノテアリマスカ其ノ中ニ「酒席其ノ他ノ資金ハ陸軍カラ出
テキル陸軍ノ大世帯ハ之レ位ナ金ニ困ラヌ決シテ不純ノ金テハナイ」
（註「暴露後砲工學校ニ於ケル會合ニ於テ大藏大尉、末松中尉カ橋本
大佐ヨリ聞イテ居リマス」）トカ「諸君ノ論功行賞ハ我々テ十分考慮
シテキル」（註神樂坂梅林ニ於テモ天野大尉等カ云ツテキマス）トカ
「彈藥ハ豊橋ノ佐佐木到一聯隊長カ直前ニ持參スル事ニナツテキル
（註菅波大尉ニ聞イテ）戴キタイト思ヒマス」トカ奇怪ナ煽動的言辭カ

漏レ出シタノミナラス「大川周明ニ依頼シテ詔勅ノ文案カ出來テキル」
 (註天野大尉ノ言菅波大尉ヨリ御聽取願ヒマス)トカ「足利尊氏ニナ
 ツテモ陛下ニ短刀ヲツキツケテモ遂行スルノタ」(註、長少佐等ノ言
 菅波大尉ヨリ御聽取願ヒマス)トカ大臣カトウノ戒嚴司令官カトウノ
 (註橋本大佐其ノ他ノ言菅波大尉カラ御聽取願ヒマス)トカカ言議サ
 レ出シ中ニハ青年將校テ憤激シテ「吾々實行ノ後ニハ二重橋前テ切腹
 シテ申譯セネハナラヌト考ヘルカ幹部ハトウスルカ」ト質問シタルニ
 對シ「切腹ハイヤタ、セヌ」(註在滿野田大尉カラ御聽取願ヒマス)ト
 答ヘタリシテ遂ニ青年將校間ニ幹部ニ對スル非常ニ思想的疑惑不信賴
 カ勃發シテ拾收カツカナクナツタノテアリマス結局幹部ノ中カラ事態
 ノ惡化ニ困惑シテ上司ニ内訴スルモノカアツタ模様テ少クトモ表面ハ
 彈壓ノ形式デアリマシタカ十月十六日夜築地錦水トイフ待合カラ幹部

ハ保護拘禁サレテ事未然ニ終ツタノテアリマス私共ハ前述ノ様ナ關係
テ十月事件ニ參加シヤウトシツツ何等具體的畫策ニ進マヌ中ニ首謀者
ニ對スル思想的疑惑不信カ生シタ爲明カニ分裂離反シテ終ヒマシタ國
家改造ニ志ス將校有志カ大體ニツニ分レマシタノハ此時カラテアリマ
シテ此時以來前ニ一寸申述ヘマシタ様ニ中傷壓迫カ私共青年將校ニ加
ヘラレル様ニナツタノテアリマス十月事件後十二月ニ政變カアリマシ
テ荒木大將カ陸軍大臣ニ就任サレルヤ~~遂~~次ニ人事移動カアツテ前二事
件ノ中堅的策謀者タル幕僚ハ中央部カラ滿洲其ノ他ニ轉出シマシタ
滿洲事變血盟團事件、五・一五事件ソシテ内外ノ所謂非常時代テア
ツテ全國ニ漲ル改造熱ト戰爭氣分ニヨツテ陸軍特ニ中央部幕僚ハ一般
カラ非常時ノ花形ノ如クニ推賞禮讚サレル一方轉出サレルモノカアリ
ソコヘ荒木陸相ニ反對スルモノ等カアツテ茲ニ荒木大將ト其ノ系統及

青年將校等ヲ一體的二見テ彼等ノ中傷排斥カ漸次烈シクナツタノデア

リマス

三 神兵隊事件ニ就イテ

昭和八年七月神兵隊事件カ起リマシタ之レハ目下豫審中テ全貌ハ未詳
 テアリマスカ民間ノ計畫ノ様ニ見エテ居ル裏面ニハ傳ヘラルル所ニヨ
 レハ相當軍部ノ背後關係カアル模様デアリマス滿洲ニ駐在スル改造派
 將校ヤ中央部將校等ニ聯關カアルト云ハレ藤田勇等モ暗躍シタト噂サ
 レテ居マス荒木陸相殺害カ閣議襲撃ノ一大重要目的デアツタ事(註直
 心道場塾頭大森一聲カラ御聞キラ願ヒマス又木村義明ノ手紙ヲ御參照
 願ヒマス)今田新太郎少佐カ恩賜ノ拳銃ヲ神兵隊某幹部ニ交附シテ居
 タコト(註、關係當局ニツキ御調ヘヲ願ヒマス)等ハ神兵隊事件ノ思
 想方針ヲ物語ルモノデアリマス檢舉後三、四名ノ中央部幕僚(池田純

久少佐、武藤章中佐、綾部橘樹少佐等ト言ハレテ居リマス。カ警視廳
某幹部ニ「何故檢舉シタカ」ヲ詰問シタト云フ話モアリマス（註阿部
特高部長ニ對シ詰問シタトノ事ヲ田中清少佐カラ聞キマシタ尙上記ノ
三名ニツキ御調査ヲ御願ヒ致シマス）
然シテ計畫ノ大要カ最近内亂罪トシテ處分サレルノテハナイカト云ハ
レル程ノモノテ政府顛覆、新政府樹立、ソノ間ニ帝都ノ大混亂ヲ招來
スルト云フ三月事件ト大同小異ノモノテアリマスノミナラス、皇族殿
下ヲ中心トスル様ナ詐略ヲ用ヒタ形跡モアツテ不臣ノ極ミテアルト思
ヒマス（註、名古屋方面ノ民間關係ニコノ形跡カアリマシタカラ大森
一聲カラ御聽取願ヒマス尙新聞ニモ一部ハ不敬罪ヲ構成スルニ非サル
ヤトノ報道カ再三アリマシタ）

此ノ事件ノ檢舉後間モナク今田少佐ハ上司ノ命ニヨリ辻大尉ト共ニ新

疆方面ニ出張シマシタ

四 私共ハ十月事件後ハ特ニ國體信念ノ研磨ヲ基礎トシテ上下一貫左右一體上長ヲ推進シ國體ニ基キ維新御親裁ニ舉軍一致シテ奉公スルコトヲ大原則トシ夫レカ爲ニ横ハ同期生、縦ハ將校團ヲ通シテ軍ノ上下左右ヲ維新的ニ結束シ以テ首腦部ヲ推進スル方針テ乏シキ資性ヲ傾倒シテ來テキルモノテ利用煽動策謀等ヲ嚴ニ戒心排斥シオ互ヒ赤子タリ國民タリ皇軍軍本タルノ情誼ト道義心トニ融合一體化スルニ努メナカラ今日ニ至ツタノテアリマス假令國法ヲ破ルノ餘儀ナキ場合ニ遭遇スルコトカアルトシテモ夫レハ私共カ尋常ノ人事ヲ盡シテ尙及ハナイ場合デアリソノ時ハ國體ノ大義ニ立脚シテ臣子ノ犧牲的本領ヲ盡スニ止マリ一死挺身シテ自ラ危キニ當リ自ラ法ノ前ニ刑死ヲ甘受スルノ非常ノ決意ノ上ニ立ツヘキ存念テアリマス平生ノ努力尙足ラサルコトヲ憂ヘテ

モ一モ二モナク無暗矢鱈ニ直接行動ヲトラントスルモノテハナイノテ
アリマス
天地神明ニ感應シ國家國民ヲ感格スル丈ケノ非常ノ大時機ハ私共自身
ニ於テ未タ到來シテキナイト考ヘテ居ルノテアリマス然ルニ以上ノ清
軍派、統制派或ハ第三期實踐派トイフ一群ノモノハ軍ノ上下左右ニ私
黨ヲ組ミ自分等ノ方針ニ追從附和シナイ者ハ悉ク中傷シ排斥壓迫シテ
來マシタ私共カ此ノ三四年間彼等カラ受ケテキル有形無形ノ迫害ニヨ
ル苦惱苦痛ハ誠ニ名狀スルコトノ出來ナイモノカアリマス
憲兵當局ナトニハ雜誌「新使命」月刊雜誌「維新」其ノ他ノ新聞雜誌
又ハ怪文書或ハ其ノ時々ニトハサレタ「デマ」ヤ怪行動ニ關スル情報
ナト蒐集サレテアルト存シマス此等ニ關シテ憲兵隊ノ書類ヲ御取寄セ
テ上十分ナル御調査ヲ御願ヒ致シマス

又第三期實踐派ニ就イテハ雜誌「國策」第三號ニ詳シク掲載サレテキ
 マスカラ御參照願ヒマス要スルニ出發點カ櫻會關係テアリ三月事件テ
 アリ其ノ當面ノ重要ナ目的カ荒木大將、眞崎大將等ト青年將校トノ清
 算テアルコトニ一致スルノテ各人小異ハアツテモ大同シテキルノテア
 リマス

其昭和八年十一月六日カラ十六日マテニ九段上ノ富士見莊ノ會合ニ始ツ
 テ偕行社ノ會合ニ終リマシタ軍事豫算問題ヲ機會トシタ首腦部推進ト
 少壯青年將校ノ大同團結促進トノ爲ノ幕僚、青年將校ノ聯合同期生會
 ノ情況ノ如キハ彼ノ一群カ如何ニ私共ニ對シテ惡意ノ排斥、中傷、壓
 迫ヲ企圖シテ居ルカタヲ露骨ニ示シタ一例テアリマス即チ六日ノ富士見
 莊ノ會合ニ出席シタモノハ影佐中佐、滿井中佐、馬奈木少佐、今田少
 佐、池田少佐、常岡大尉、權藤大尉、辻大尉、塚本大尉、林秀澄大尉

目黒大尉、柴有時大尉及海軍ノ末澤少佐等テアリマシテ反西田、西田
攻撃ニヨツテ青年將校ヲ壓迫シ其ノ空氣ノ上ニノツテ大同團結ヲ企圖
シタモノテアリマスカ山口大尉、柴大尉ノ意見ニヨリ會合ノ性質カ段
々變化シテ眞ノ大同團結ヲナス如ク努力サレテ來マシタカ十六日ノ偕
行社ノ會合ニヨツテ遂ニ其ノ目的カ達セラレナカツタノテアリマス、
當日ハ牟田口中佐、清水中佐、土橋中佐、下山中佐、池田少佐、田中
少佐、片倉少佐、今田少佐、田副中佐、滿井中佐、常岡大尉、山口大
尉、柴大尉、寺尾大尉、目黒大尉、大藏大尉、磯部主計等ニヨツテ會
合サレタルモノテアリマスカ陸軍省ノ方針ナリトシテ徹底的ニ彈壓サ
レタノテアリマス此ノ會合以來特ニ目立ツテ彈壓カ激シクナツタノテ
アリマスカ此ノ會合ノ内容カ如何ナルモノテアツタカ歩一山口一太郎
大尉及磯部主計ニ、大藏大尉及ヒ前述各將校ニ就キ其ノ時ノ集合ノ情

況ヲ充分御調査願ヒマス

六最近問題ニナツテ居リマス床次五十萬元怪文書事件ノ犯人ト其ノ背後ノ關係將校ノ如キモ彼ノ一群中ノ一部ニ外ナラヌノテアリマス

第三、片倉少佐、辻大尉及塚本大尉ノ立場

今回ノ誣告事件ニ直接關係セル片倉、辻、塚本ノ三名ハ前述ノ様ナ軍内ノ情勢ニ於テ從來如何ナル立場ニアツタカ之レカ實ハ事情ヲ明白ニスル重點ナノテアリマス

一三月事件ニ三名ノ者カ直接ノ關係アツタカ否カ又十月事件ニ片倉少佐塚本大尉ノ兩人カ關與シタカ否カハ不明テアリマスカ辻大尉ハ十月事件ニハ私共トハ立場ヲ異ニシタ關係テ參加シテキタノテアリマス當時首謀將校側テハ私共ニ向ツテ「辻ハ前途アル陸大ノ優等生テアルニ拘ラス敢然參加シテ居ル實ニ偉イ奴タ」ト盛シニ吹聴推獎シタモノテア

リマス（註橋本大佐等カ云ツテキルノヲ菅波大尉等カ聞イテ居リマス）
私共ニ關スル豫審ニ於テ辻大尉ハ十月事件參加ヲ否定シ且橋本大佐ヲ
惡罵シテ居ル様テアリマスカ十月事件ニ參加シタ事ハ辻自身モ方々テ
吹聴シテキル様テ昭和九年初メ頃私カ辻大尉ヲ訪問シタ折ニモ電報ア
リ次第何時テモ飛ノテ歸ル決心テ拳銃及軍刀ヲ用意シテ參謀旅行ニ出
張シタ事ヲ明言シテキマシタシ又大藏大尉磯部主計モ辻大尉カラ同様
ノ事ヲ直々ニ聞イテ居リマス

ニ辻大尉ハ上海出征歸還後參謀本部勤務トナツテカラハ宣傳サレタ戰場
テノ武勳ト軍刀組ノ前途有望ナ青年將校幕僚テアル事ナトカラ滿洲事
變勃發當時ノ關東軍參謀テアリ爾後北九州ニ於テ改造運動ノ指導ニ從
事シタコトノアル片倉少佐ト相並ンテ若手幕僚ノ花形ト目サレルニ至
リ特ニ統制派、清軍派ノ少壯中堅人物トシテモハヤサレテキルノテア

リマス

殊ニ永田少將カ軍務局長トナリ中央部ニアル統制派、清軍派ノ幕僚カ

主力トナツテ永田中心ニ結束スルヤ先輩ニ伍シテ有力ナ地歩ヲ占メタ

ノテアリマス

三 昭和八年十一月ノ前述シマシタ聯合同期生會ニハ影佐中佐、今田少佐

常岡大尉其ノ他ト共ニ此ノ三名ノ者カ出席シテ居リマス

四 昭和八年夏頃大藏大尉、磯部主計等カ永井八津次大尉宅ニ於テ辻大尉

永井大尉、多田大尉ト會同シテ改造問題ニ就キ辻大尉ノ意見ヲ聞イテ

居リマスカラ磯部主計カラ之レニ關シテ御聽取ヲ御願ヒ致シマス

五 辻大尉ハ所謂中央部改造派尉官級有志トシテ片倉少佐、永井大尉、荒

尾興助大尉其ノ他ト一群ヲナシテ居リマス同期生テ且同志テアル多田

督知大尉、山縣有光大尉、塚本誠大尉等トモ一體テアリマス尙今田少

佐、田中少佐、影佐中佐、池田少佐、其ノ他坂西大佐、根本大佐ヲ始
メ新聞班、調査班、軍務局、參謀本部ニ在ル人々ト一群ヲナシテ居リ
直接テハアリマセンカ是等ノ人々ノ關係カラモ十月事件ノ首謀將校方
面トモ連絡カアリマス

特ニ片倉少佐辻大尉塚本大尉ノ三名ハ密接ナル同志關係ニ在ツテ前告
訴狀ニ記載シマシタ中央部大尉級十數名テ國家改造計畫（註目黒大尉
及上司ニ具申サレタ同計畫書ニツキ御調ヘラ願ヒマス）ヲ作製シ上司
ニ具申シタトキノ指導的中心人物ハ實ニ當時大尉テアツタ片倉少佐及
辻大尉ノ兩名テアリ片倉少佐ハ進級後モ中央部大尉級ヲ牛耳ツテ集合
等ヲヤツテ居リ又辻、塚本兩大尉ハ幼年學校以來ノ親友テアツテ塚本
大尉カ昭和八年九年頃士官學校校外休憩所ニ於テ生徒ニ對シテ國家改
造ノ具體的計畫ヲ誇示シテキタコト（註、野七安田少尉ニ聞イタ事テ

アリマス。辻大尉カ自ラ士官學校中隊長ヲ志願シタコトカラ推察スル
 ニコノ兩人ノ間ニハ軌ヲ一ニスル傾向ヲ示スモノカアリ改造運動上密
 接ニ連繫シテ來ツタモノト見ルコトカ出來マス

第四、片倉少佐及辻、塚本兩大尉竝其ノ周圍

背後ノ近情

我意恣心ノ國家改造ヲ遂行スル爲先ツ荒木大將眞崎大將等ト私共青年將
 校トヲ放逐シテ清軍スルニアルトイフ方針カラ又軍ノ統制トイフ美名ノ
 下ニ私共ヲ彈壓驅逐セントスル野望ノ下ニ彼ノ一群ノ有志ハ屢々ヨリヨ
 リ會合シ策謀シテ居マス私共ノ耳ニシテ居リマス又ヲ申述ヘマスト次ノ
 通りテアリマス

一昨年七月頃國府津町國府津館ニテ永田少將其ノ他池田少佐、田中少佐
 等數名カ軍部國策遂行方針協議ノ名目テ種々根本方針ヲ協議シタ事實

カアリマスカ表面ハ軍務テアツタカ其ノ實ハ或種ノ陰謀テアツタト言
ハレテ居リマス

ニ 昨年八、九月ニハ例ノ床次怪文書カ彼等ノ有力ナ一部ノ暗躍テ頒布サ
レテ居リマス之ハ最近政黨有志ト連絡シテ倒閣運動ニ進ミ自分等ノ好
ム南、松井大將等ヲ陸相ニ出スヘク倒閣ト林陸相交迭トヲ目的ニシテ
策謀サレテ居ル模様テアリマス

三 昨年九月頃カラ築地ノ待合河内家又ハ錦水、神樂坂ノ某待合ニ屢屢田
中少佐、片倉少佐、天野大尉、中谷武世等カ參集シテ反對派清算ヲ協
議シテ居ル様テアリマス之ニ待合ニツキ充分御調査ヲ願ヒマス

以下中谷武世及同人ノ軍部關係ニツキテ私共ノ承知シテ居ルコトヲ申
述ヘマス

イ、最初ハ大川周明ノ行地社ニ居リマシタカ大正十五年ニ離レマシタ

ロ、其ノ後愛國勤勞黨ヲ組織シ天野辰夫、前田虎雄、安田鐵之助、佐佐井一晃其ノ他ト一緒ニヤツテ居リマシタ則チ神兵隊事件ノ中心勢力ノ一人テアリマス此頃カラ軍部ノ彼ノ一群ト知合ツタト思ヒマス

ハ、國際聯盟脫退當時松井石根大將ヲ中心トシ樋口季一郎大佐（櫻會漸進派ノ中心人物）等ト「大亞細亞協會」ヲ設立シ軍部ノ幕僚方面ト密接ナ連絡ヲ持チマシタ

ニ、昨年ハ「新使命」ノ高野清八郎ト共ニ軍人思想攪亂ニ原因スル出版法違反ノ刑罰ニ觸レマシタ

ホ、右ノ如キ關係カラ統制派清軍派將校ト極メテ密接ナ連絡カアリ同

一方針ニ立ツ部外ノ有力者テアリマス片倉少佐、常岡大尉、天野大尉トハ最密接シテ居マス

ヘ、本年一月三、四日頃伊豆伊東温泉某旅館ニ中谷武世、天野勇、廣

島平野某ノ三名カ宿泊シテ亂痴氣騒キヲシテ居マス又同時同地某別
莊ニ松井石根大將カ十四、五名ヲ集メ何事カ謀議セル事實カアリマ
ス

右ノ廣島平野某ハ恐クハ常岡大尉ト想像シテ居リマス尙一應御調査
願ヒマス

ト、本年二月下旬頃神樂坂待合梅林ニ中谷武世及陸軍佐官二名カ宿泊
シ臨檢ヲ受ケマシタ事實カアリマスカ之ニヨツテ見ルモ中谷武世カ
如何ニ陸軍佐官級ト結托シテキルカカ明瞭ニ實證サレマス神樂坂警
察署ニツキ事實ノ御調査ヲ願ヒマス

チ、最近聞ク所ニ依レハ中谷ハ次ノ如キ資金ヲ集メテ居ルノテ前述ノ
待合會合ノ費用等其ノ中カラ支出シテ居ルノテハナイカト考ヘラレ
マス何レニシテモ軍人カ一~~緒~~ニ其ノ様ナコトヲスルノハ全ク醜劣不